

2025 Study Guide

スタディガイド

[教育支援課程]

令和7年度入学生用



東京学芸大学

スタディガイドとは？

「2025 スタディガイド[教育支援課程]」は、入学時に定められている授業の履修方法及び履修基準等が記載されており、4年間の学修を総合的にサポートするためのものです。また、教育職員免許状・資格及び受験資格取得に必要な事項についても記載されています。

「スタディガイド」は、入学時のみ配布され、4年間使用するものです。
卒業するまで大切に保管してください。

なお、授業科目名や開設時期等に変更が生じた場合は、掲示板や学芸ポータル等でお知らせします。各自ご確認ください。

授業ガイドとは？

授業ガイドは、スタディガイドに掲載されている授業科目が「いつ・どこで・誰が・どのように」実施しているかを、ウェブ上で確認することができます。

東京学芸大学ウェブサイトの「教育学部」のページから、シラバス「授業ガイド(シラバス検索)」の閲覧が可能です。特に、シラバスには、授業の目標やスケジュール等の記載がありますので、履修登録の際は必ずご確認ください。

目 次

1 東京学芸大学の概要	1
2 カリキュラム用語集	3
3 専攻及び授業科目区分の略称	5
4 カリキュラムの特色	6
5 東京学芸大学の科目ナンバリング	10
6 教育組織	13
7 学群・教室一覧	14
8 授業時間割及び履修上の注意事項	15
9 GPA(グレード・ポイント・アヴェレージ)による成績評価	19
10 自律型カリキュラムデザイン	20
11 インターンシップ,多摩地区国立5大学単位互換制度	22
12 指導教員制度と指導体制	24
13 オフィスアワーについて	24
14 学生による授業アンケート	25
15 履修基準	26
16 卒業要件	27
17 開設授業科目一覧の見方	28
18 教養科目	29
① 総合学芸領域 (CA)	36
② 健康・スポーツ領域 (CH)	40
③ 語学領域 (CL)	41
19 教育創成科目	45
20 専攻科目	49
教育支援課程[E類]教育支援専攻	49
課程共通科目(SS)	49
生涯学習・文化遺産教育コース	50
カウンセリングコース	53
ソーシャルワークコース	55
多文化共生教育コース	57
情報教育コース	60
表現教育コース	63
生涯スポーツコース	65
課程共通選択科目(SC)	67

21 資格又は受験資格取得に必要な単位及び履修方法	
1. 司書	69
2. 学校司書	70
3. 社会教育主事(社会教育士)	71
4. 学芸員	72
5. 社会福祉士	73
6. スクール(学校)ソーシャルワーカー	74
7. 公認心理師	74
8. スポーツ指導者関連資格	75
9. 健康運動指導士・健康運動実践指導者	77
10. 登録日本語教員	78
22 教育支援課程 コースガイド	81

1 東京学芸大学の概要

－ 教育への情熱 知の創造 －

東京学芸大学は、日本の教育系大学の中心に位置し、優れた人材を社会に送り出してきました。この標語は、教育と文化の世紀といわれる21世紀において教育と知の創造者であり、開拓者であろうとする本学の姿勢を端的に表現したものです。

【大学の目的】

東京学芸大学は、人権を尊重し、すべての人々が共生する社会の建設と世界平和の実現に寄与するため、豊かな人間性と科学的精神に立脚した学芸諸般の教育研究活動を通して、高い知識と教養を備えた創造力・実践力に富む有為の教育者を養成することを目的とする。（「東京学芸大学学則」第1条より）

【ディプロマ・ポリシー】(卒業認定・学位授与の方針)

本学は、知識基盤社会を支える有為の教育者を養成し、教育を通して社会変革を主導する拠点的な大学として、個人の幸福と世界の持続的発展に貢献し、それらを自律的かつ主体的に実現することができるコンピテンシー等を、未来を切り拓く重要な力として育成し、有為の教育者を養成することを使命としている。

この使命のもと、教育学部においては、①豊かな教養と広い視野により、②児童生徒をはじめとする人間の発達についての深い理解を得るとともに、③それぞれの専門的な学識・技能を身につけ、④それらを基に社会の様々な場における教育的な実践を行える優れた人材を育成することを目標としている。

この目標に基づき、それぞれの課程・専攻・コース所定の単位を修得し、学士課程全体を通じて体得した幅広い学識や研究手法などを基に、今後の社会において生じうる様々な課題に対して柔軟に対応できる発展性と、自己成長力を身に付けるとともに、立場を異にする者との連携・協働により、こうした課題解決に取り組むことができると認められる者に学士（教育）の学位を授与する。

4つの目標に関して、身に付ける具体的な資質・能力は課程ごとに下記のとおりとする。

1 豊かな教養と広い視野

現代社会の諸事象（個々の人間存在・社会の構成・自然界の状況等）を主体的に捉え、多様な視野と方法をもって分析する力を身に付ける。

母語や文化を異にする多種多様な人々の思考を知り、相互に尊重し合い、円滑なコミュニケーションを図ることができる。

2 教育課題及び人間発達に関する理解

時代や社会の状況に応じて変化する多様な教育課題を把握し、学校や社会をより良く変革することに自律的・主体的に取り組むことができるとともに、それぞれの時点での人間の知識・技能の個々の課題に応じて、発達を援助する実践につなげることができる。

3 専門的な学識・技能

人間の発達や教育課題を解析する諸学問等について専門的な学識を持つとともに、そうした学識を基に研究的な発信をすることができる。

(生涯学習・文化遺産教育コース)

地域や職場、公民館・図書館・博物館、学校などにおいて、相互に共同して実践的指導力を発揮することができる。また、文化財とその保存に興味と関心を持ち、教育に活用できる。

(カウンセリングコース)

学校現場や社会で生じている心の問題に対応するために必要な心理学の理論や方法を習得し、専門的な心の支援が実践できる。

(ソーシャルワークコース)

社会福祉の専門的知識と技術をもって、学校をはじめとする関連領域の専門家と協働しながら、児童・生徒・家族および関係者に対するソーシャルワークを実践できる。

(多文化共生教育コース)

多文化共生社会の中で外国につながる人々とともに学ぶために、異なる文化・言語に関心を持って多様な価値観を持つ人々と協働し、国内外の学校や地域・社会とコミュニケーションを行うことができる。

(情報教育コース)

教育の情報化と情報通信技術（ICT）の進展に対応して、情報科学およびICTに関する専門的な知識とスキルをもとに、情報教育を推進したり、ICTと人間や社会との関係を科学的に探究したりすることで、学校、地域・社会、関連企業等において、ICTの開発者としても活躍できる。

(表現教育コース)

芸術表現に関する理論と実践的経験を、教育を含むあらゆる社会的なコミュニケーションの場で応用できる。

(生涯スポーツコース)

体育、スポーツ、レクリエーションの各分野において、専門的指導者として体力づくり、競技力の向上、健康づくり等を担うことができる。

4 協働的な実践力

立場を異にする様々な他者と連携・協働し、その時々に関わる課題の解決策を導くことができる。

2 カリキュラム用語集

- 1 必修科目** 卒業するために必ず履修し単位を修得しなければならない科目です。
- 2 選択科目** 指定された科目群の中から科目を選択し、所定の単位数を修得する必要のある科目です。
- 3 自由選択** 自由選択は、幅広い知識や技術を身に付けるため、自分の課程・専攻・コース・プログラムの分野を超えて、他の課程や専攻・コース・プログラムで開設している授業科目を履修できるようにしたものです。
(自由選択の単位となる例)
1)他の課程・専攻・コース・プログラムでのみ開設している授業科目の単位を修得した場合
2)教養科目について、履修基準で定めている 22 単位を超えた単位
3)教育創成科目について、履修基準で定めている 7 単位を超えた単位
4)自コース・プログラムの専攻科目の履修基準を超えて修得した単位
5)多摩地区国立5大学単位互換協定により他大学で履修した単位
※原則どの科目も授業担当教員の許可が得られれば履修可能ですが、特定の授業科目は履修制限を行っているため注意してください。
- 4 卒業研究** 卒業研究は、大学生活を締めくくる最後の授業科目です。卒業年次に指導教員の指導を受けながら研究を行います。
- 5 年 次** 入学してからの年数のことです。
- 6 学 期** 学期とは、学年を春学期と秋学期の2期に分けたものです。更に、各学期を前半及び後半に分けたものをタームと呼び、春学期の前半が第1ターム、後半が第2ターム、秋学期の前半が第3ターム、後半が第4タームとなります。
- 7 標準開設学期** 標準開設学期は授業科目が標準に開設される年次・学期を示しており、Ⅰ期(1年次春学期)～Ⅷ期(4年次秋学期)まであります。タームは“前”、“後”で記載し、例えば、1年の第1タームに開設される場合は“Ⅰ 前”期、1年の第3、4タームに開設される場合は“Ⅱ 前後”期となります。
授業科目は、標準開設学期において履修することが原則です。
- 8 集中授業** 授業を一定期間にまとめて行う授業形態のことです。
- 9 単 位** 本学においては、各授業科目の単位数を 45 時間の学修を必要とする内容をもって 1 単位とし、次のとおり単位を計算しています。
1 講義及び演習については、14 時限分又は 28 時限分の授業をもって 2 単位とする。
2 実験・実習及び実技については、28 時限分又は 42 時限分の授業をもって 2 単位とする。ただし、特定の授業科目、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、別に定める時間の授業をもって 1 単位とする。
- 10 シラバス** 授業科目のねらいや到達目標、学修内容、テキスト、参考文献、成績評価の方法、授業スケジュール(展開計画)、受講制限等を記したものです。

11 履修カルテシステム 学校教育教員養成課程の必修科目である「教職実践演習」の履修に向けて、4年間の教職関連科目の履修状況を記録・省察し、教員として必要な知識技能について自身の到達点と課題を確認するためのものです。このシステムは、学芸ポータルからアクセスすることができます。

12 CAP制 学期及び年間の履修登録単位数を制限する制度です。それぞれの授業科目について、自学自習(予習・復習)時間を確保し、学びを深めることを目的としています。

3 専攻及び授業科目区分の略称

1 専攻の略称

本学では教育組織（専攻）は、以下の略称を一般的に使用しています。

A類＝ 学校教育教員養成課程初等教育専攻

B類＝ 学校教育教員養成課程中等教育専攻

C類＝ 学校教育教員養成課程特別支援教育専攻

D類＝ 学校教育教員養成課程養護教育専攻

E類＝ 教育支援課程教育支援専攻

2 授業科目区分及び略称

授業科目区分について、本学では略称を用いることがあります。

○教養科目

・CA＝総合学芸領域

・CH＝健康・スポーツ領域

・CL＝語学領域

○教育創成科目

・EC

○教育基礎科目(学校教育教員養成課程のみ)

・EB＝教育の基礎的理解に関する科目

・EM＝道徳・総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導, 教育相談等に関する科目

・EP＝教育実践に関する科目

○専攻科目

・SS＝課程共通科目(教育支援課程のみ)

・SP＝小学校の教科に関する専門的事項(A類(幼児教育を除く)・C類のみ)

・SK＝幼稚園の領域に関する専門的事項(A類幼児教育のみ)

・ST＝教科(保育内容)の指導法(学校教育教員養成課程のみ)

・SE＝教育内容科目(学校教育教員養成課程のみ)

・S＝必修科目

・SA＝選択科目A

・SB＝選択科目B(他コースの開設科目)

・SC＝課程共通選択科目(教育支援課程のみ)

・SZ＝卒業研究

4 カリキュラムの特色

【カリキュラム・ポリシー】(教育課程編成・実施の方針)

東京学芸大学は、教員養成を主目的とした学校教育教員養成課程と、学校現場と協働して様々な現代的教育課題の解決を支援できる人材を養成する教育支援課程の2つの課程で構成されており、大学全体として、次のようなカリキュラムを編成、実施するものとします。

《教育課程の編成及び教育の内容》

本学においては以下、4つの科目区分を体系的に編成し、卒業認定・学位授与の方針に掲げる4つの目標と授業科目との関係について、カリキュラムマップ、ナンバリングを通して可視化します。

なお、「教養科目」や「教育創成科目」に一部開設する留学生との共修科目により、国際的視野の獲得を目指します。

「教養科目」

人権を尊重し、国際的視野を基盤とした共生社会の実現に貢献できるよう、深い教養と豊かな知性を身につけることを目的に、1、2年生を対象に、「総合学芸領域」、「健康・スポーツ領域」、「語学領域」の3つの領域にわたって学修します。「総合学芸領域」は学士課程での学びの基礎を固めるとともに、多様な学問の視角や方法を体得することを通じて、現代的諸課題を自ら把握し主体的に探究する姿勢を養うことを目的に、(A)「学びの基本」となる科目群、(B)人間の存在や営みについて深めるタイプの科目群、(C)社会の多様性や広がりを知るタイプの科目群、(D)世界の様々な事象を科学的に解明するタイプの科目群、の4つの科目群で構成されます。

特に本学は、人権教育を重視しており、「人権教育」を全学必修科目に加えています。

「教育創成科目」

子供・教師・学校が社会とともにより良い未来を創造していく教育の実現に向けて、伸ばすべき5つの資質能力①「探究力、創造力、他者・社会と協働できる力」を育成する力②子供が置かれている多様な環境への対応力③学び続けるために自己をマネジメントする力④学校教育のより良い変革に資する基盤となる探究力、創造力⑤学校内での協働・社会との連携をマネジメントする力、に対応した科目で構成され、教育という営みの様々な課題について先端的な内容を学ぶ未来志向の内容です。学生は、自らの目指す教師の在り方・課題に基づいて主体的に授業科目を選択することで、自らの学びをデザインします。

1年生から3年生を対象に、主に学校教育にフォーカスしたもの（Ⅰ群）と学校内外での様々な教育課題に関わるもの（Ⅱ群）に区分され、学校教育教員養成課程と教育支援課程の学生が共通に学ぶ横断的な科目群となっています。

「教育基礎科目」

教育職員免許法を踏まえ、教育の基本的概念や基礎的な知識、教職の在り方及び児童生徒の発育等に対する理解を修得する「教育の基礎的理解に関する科目」（1、2年生対象）と、実践的な教育方法や指導法等を扱う「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」（2、3年生対象）により、学校教育にかかる基礎的な内容を学ぶ

科目です。更に、1，2年生を対象とした「自己創造のための教育体験活動」にて学校現場での体験活動を主体的にデザインすることで自らの課題認識形成の端緒とし、3，4年生で履修する教育実習や教職実践演習等の「教育実践に関する科目」により、「教育の基礎的理解に関する科目」や「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」で学んだ内容を実践につなげます。

※学校教育教員養成課程のみで開設される科目です。

「専攻科目」

コース・プログラムで学ぶ教科等の専門的な学びを深める1～4年生を対象とした科目群です。保育における各領域や小学校、中学校、高等学校の各教科の指導をするために必要な内容を学ぶ「教科（保育内容）の指導法」や、教科等の専門性と学習指導の融合・架橋を図る「教育内容科目」を含みます。「卒業研究」は4年間の学びの集大成に位置づけ、全学必修科目とします。

また、「専攻科目」には初年次向け専門基礎科目（入門セミナー）を設け、新入生の大学における学修に加え、各コースの専門的な内容を円滑・効果的に進めるためのカリキュラムを編成しています。

《教育方法》

- ・各授業科目のシラバスにおいて、ねらいと目標、内容、テキスト、参考文献、成績評価方法、授業スケジュール、授業時間外における学習方法、授業実施方法を周知します。
- ・各授業科目は講義、演習、実験、実習など、教育内容の特質にあわせた授業形態で実施します。また、実習科目の中には教育実習等、講義等で得た知識を現場で実践する方法について学ぶ科目を含みます。
- ・アクティブ・ラーニングを授業科目の中に積極的に取り入れることで、主体的な学習を促進します。
- ・履修カルテや、教職実践ポートフォリオ等により、学生が自身の学習を振り返ることで、自らの課題に基づいた主体的な学習計画を作成することを促します。
- ・学生の主体的で計画的な学習（それぞれの授業科目の予習・復習の時間を含む）を促すため、履修登録単位数に制限を設けるCAP制を導入しています。
- ・ICT活用指導力修得のための科目群を体系的に開設し、本学独自のチェックリスト等を通して学びの体系性を可視化します。

《学修成果の評価》

- ・学修成果の評価にあたっては、客観性、厳格性を確保するため、シラバスにより、学生に対し評価基準をあらかじめ明示し、その基準に従って適切に行います。
- ・学生自身が学年の初めに1年間の学修計画を十分に立て、自分の学修目標をしっかりと定めたうえで、履修する授業科目を選択させることを目的に、GPAによる成績評価制度を導入しています。GPAは指導教員にも通知され、学習指導や助言等の参考にすることにより履修指導の促進も図ります。

卒業認定・学位授与の方針に掲げる4つの目標を達成するため、課程ごとに、以下のカリキュラムを編成、実施します。

[教育支援課程]

本課程は、教育の基礎理論と教育支援の専門知識、ならびに協働力・ネットワーク力・マネジメント力を習得することを通じて、学校現場と協働して様々な現代的教育課題の解決を支援できる有為な教育支援人材の養成を目的としたカリキュラム構成となっています。

1 豊かな教養と広い視野

現代社会の諸事象（個々の人間存在・社会の構成・自然界の状況等）を主体的に捉え、多様な視野と方法をもって分析する力を身につけるとともに、母語や文化を異にする多種多様な人々の思考を知り、相互に尊重し合い、円滑なコミュニケーションを図ることを目的に、「教養科目」において、「総合学芸領域」、「健康・スポーツ領域」、「語学領域」の3つの領域にわたって学修します。

2 教育課題及び人間発達に関する理解

時代や社会の状況に応じて変化する多様な教育課題を把握し、学校や社会をより良く変革することに自律的・主体的に取り組むことができるとともに、それぞれの時点での人間の知識・技能の個々の課題に応じて、発達を援助する実践につなげることを目的に、「教育創成科目」において、学校内外の教育課題等を学修します。

3 専門的な学識・技能

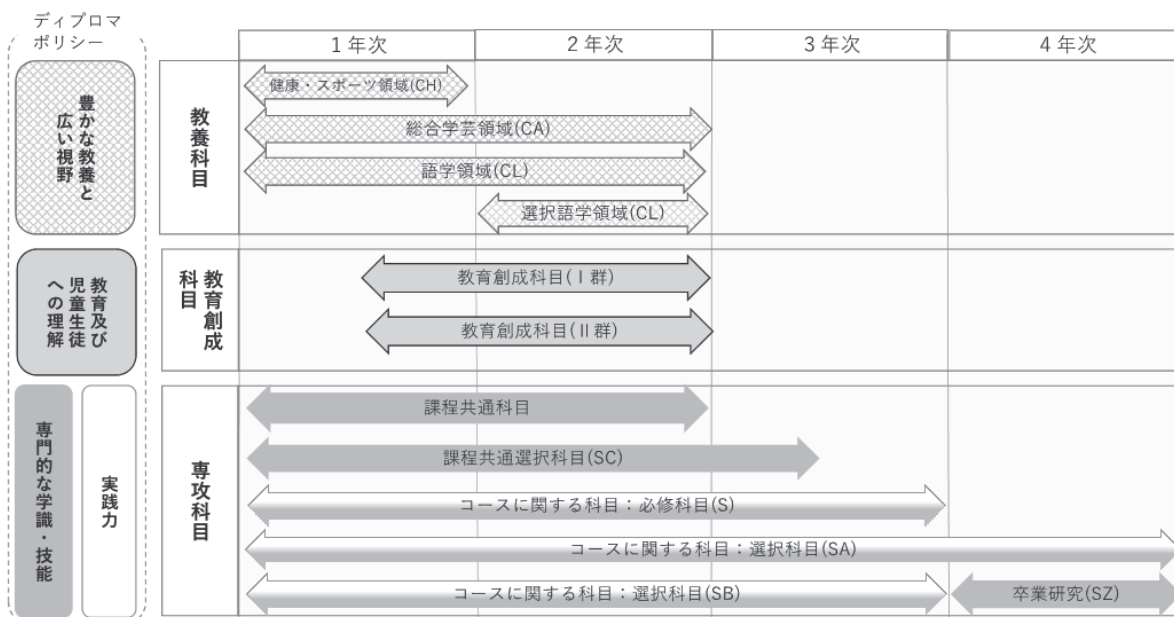
人間の発達や教育課題を解析する諸学問等について専門的な学識を持つとともに、そうした学識を基に研究的な発信をすることを目的に、「専攻科目」において、コースの特性に応じたグローバル化や情報化の進展、心の教育の必要性、表現やコミュニケーション等の専門的な内容を学修します。

また、課程共通科目を設けることにより、7つのコースが一体となったカリキュラムを構成すると同時に、各コースの専門性を基礎としたキャリア教育を充実させることにより、広く教育支援人材に必要とされる専門的な内容を学修します。

4 協働的な実践力

立場を異にする様々な他者と連携・協働し、その時々に関与している諸課題の解決策を導くことを目的に、「専攻科目」において、コースの特性に応じた様々なフィールドでの実践力を身に付けます。

【カリキュラムマップ】



5 東京学芸大学の科目ナンバリング

科目ナンバリングは、東京学芸大学で開講している教育学部、大学院教育学研究科（修士課程）、大学院教育学研究科（教職大学院の課程）、特別支援教育特別専攻科の科目に付けられたナンバーのことで、その科目のカリキュラム上の科目区分、水準・順次性、授業開設講座・教室等、授業形態を表しています。なお、ナンバリングは毎年付番するものではなく、授業科目に固定したものです。変更が生じた際は再付番を行います。

1. 科目ナンバリングの形式

1 2 3 04 5
① ② ③ ④ ⑤

2. コードの意味（教育学部抜粋）

① 学位対象プログラム（1桁）

教育学部、大学院教育学研究科（修士課程）、大学院教育学研究科（教職大学院の課程）、特別支援教育特別専攻科の別を表しています。

分類	コード
教育学部	1

② 科目区分（1桁）

教育学部のカリキュラムは「教養科目」「教育基礎科目」「専攻科目」「教育創成科目」の科目区分からなっています。

科目区分	コード
教育学部 教養科目	1
教育学部 教育基礎科目	2
教育学部 専攻科目	3
教育学部 教育創成科目	4

③ 標準修学段階（1桁）

本学の学生が学習する内容において、当該科目を履修することが概ね相応しい学年（標準開設学期）やカリキュラムにおける履修の順次性を表しています。

配当年次	コード
1年生	1
2年生	2
3年生	3
4年生	4

配当年次	コード
1 年生又は 2 年生	5
2 年生又は 3 年生	6
3 年生又は 4 年生	7

④ 授業開設講座・教室・分野等（2 桁）

授業科目を開講する講座・教室・分野等を英数字 2 文字で表しています。

講座・教室等名	コード
学校教育	03
学校心理	05
幼児教育	07
特別支援教育	09
家庭科	10
国語科	12
英語科	13
社会科	14
社会科教育学	15
地理学	16
歴史学	17
哲学	18
法学・政治学	19
経済学	20
社会学	21
数学科	24
理科	25
理科教育学	26
物理学	27
化学	28
生物学	29
地学	30
技術科	31
情報教育（学校教育教員養成課程）	32
音楽科	34
美術科	35
書道科	36
保健体育科	37
養護教育	38
国際教育（A 類）	39
環境教育（A 類）	47

講座・教室等名	コード
情報教育授業運営部会	90
先端教育人材育成推進機構	92
留学生センター	94
複数教室／複数分野	97
カリキュラム改革推進本部	98
その他	99
生涯学習・文化遺産教育	E1
カウンセリング（E 類）	E2
ソーシャルワーク	E3
多文化共生教育	E4
情報教育（E 類）	E5
表現教育	E6
生涯スポーツ（E 類）	E7

⑤ 授業形態（1桁）

「講義」「演習」「実験」等の授業形態を表しています。

授業形態	コード
講義	1
演習	2
実技，実験又は実習	3
講義と演習	4
講義と実習	5
演習及び実技，実験又は実習	6
講義及び実技，実験又は実習	7
卒業研究等	8

◆ナンバリングの例

科目名称 音楽と文化

- ① 学位対象プログラム： 教育学部
- ② 科目区分： 教養科目
- ③ 標準修学段階： 2年生
- ④ 授業開設講座・教室・分野等： 音楽科
- ⑤ 授業形態： 講義

1 1 2 3 4 1
 ① ② ③ ④ ⑤

6 教育組織

1 学校教育教員養成課程

学校教育教員養成課程は、次の専攻、コース、プログラムから構成されています。

初等教育専攻(A類)

国語コース	
社会コース	
数学コース	
理科コース	
音楽コース	
美術コース	
保健体育コース	
家庭コース	
英語コース	
現代教育実践コース	学校教育プログラム
	学校心理プログラム
	国際教育プログラム
	環境教育プログラム
ものづくり技術コース	
幼児教育コース	

中等教育専攻(B類)

国語コース	社会コース	数学コース
理科コース	音楽コース	美術コース
保健体育コース	家庭コース	技術コース
英語コース	書道コース	情報コース

特別支援教育専攻(C類)

聴覚障害・言語障害系コース	発達障害・学習障害系コース
---------------	---------------

養護教育専攻(D類)

養護教育コース

2 教育支援課程

教育支援課程は、次の専攻・コースから構成されています。

教育支援専攻(E類)

生涯学習・文化遺産教育コース	カウンセリングコース	ソーシャルワークコース
多文化共生教育コース	情報教育コース	表現教育コース
生涯スポーツコース		

7 学群・教室一覧

本学では、教育研究を円滑に運営するために学部を、課程及び専攻・コース・プログラム別に、4つの学群(総合教育科学群、人文社会科学群、自然科学群、芸術・スポーツ科学群)に分けています。学生は各自のコース・プログラムにより、この4つの群のいずれかに所属します。

群	学校教育教員養成課程		教育支援課程	
	教室	学生が所属する 専攻(類)・コース・プログラム	教室	学生が所属する 専攻(類)・コース
総合教育科学群	学校教育	A類 現代教育実践コース 学校教育プログラム	生涯学習	E類 生涯学習・文化遺産教育コース
	学校心理	A類 現代教育実践コース 学校心理プログラム	カウンセリング	E類 カウンセリングコース
	幼児教育	A類 幼児教育コース		
	特別支援教育	C類 聴覚障害・言語障害系 コース, 発達障害・学習障害系 コース		
	家庭科	A・B類 家庭コース		
	国際教育	A類 現代教育実践コース 国際教育プログラム		
	環境教育	A類 現代教育実践コース 環境教育プログラム		
人文社会科学群	国語科	A・B類 国語コース	ソーシャルワーク	E類 ソーシャルワークコース
	英語科	A・B類 英語コース	多文化共生教育	E類 多文化共生教育コース
	社会科	社会科教育学		
		地理学		
		歴史学		
		哲学		
		法学・政治学		
		経済学		
		社会学		
自然科学群	数学科	A・B類 数学コース	情報教育	E類 情報教育コース
	理科	理科教育学		
		物理学		
		化学		
		生物学		
		地学		
	技術科	A類 ものづくり技術コース B類 技術コース		
	情報教育	B類 情報コース		
芸術・スポーツ科学群	音楽科	A・B類 音楽コース	表現教育	E類 表現教育コース
	美術科	A・B類 美術コース	生涯スポーツ	E類 生涯スポーツコース
	書道科	B類 書道コース		
	保健体育科	A・B類 保健体育コース		
	養護教育	D類 養護教育コース		

8 授業時間割及び履修上の注意事項

1 授業時間

授業時間は、次のとおりです。(春・秋学期共通)

第1時限	8：30～10：10
第2時限	10：20～12：00
第3時限	12：50～14：30
第4時限	14：40～16：20
第5時限	16：30～18：10

2 時間割編成上の区分

時間割は、原則として課程、コース・プログラムごとに編成されています。

3 履修上の注意

履修にあたっては、春学期開始時に授業の時間割やシラバスが公開されますが、カリキュラムには定められた規則があるので、これに十分注意して履修しなければなりません。特に必要な項目を抜粋して次に掲げておきます。また、履修上いろいろな制限があるので、卒業に支障のないよう、十分に注意してください。

1) 単位の認定

単位は、当該授業科目の単位数全体について認定するものとし、授業科目の単位数の一部を認定することはできません。ただし、学則第25条の規定により交換留学する学生が履修する通年科目については、分割して認定される場合があります。必ず事前に学務課まで照会ください。

2) 出席時数

学生は、公欠を含め授業の3分の2以上出席しなければなりません。(カリキュラム実施細則第6条)

3) 公欠制度

次の各号の事由によりやむを得ず履修中の講義(ただし集中講義を除く。)を欠席する場合は、これを公欠として取扱い、単位認定要件に係る欠席扱いとしないこととなります。

- (1) 感染症に罹患、あるいは罹患している疑いやおそれがあることにより、出席停止の措置を受けた場合
- (2) 親族(第3親等まで)が死亡した場合
- (3) 国、地方公共団体又は全国規模の団体からの要請により、行事等に大学が学生を派遣する場合
- (4) 大学が指定する事業(教育実習、介護等体験など)に参加する場合
- (5) その他学長が必要と認める場合

(手続きには期限があります。公欠の具体的な基準及び手続きについては、学芸ポータル等で確認してください。)

4) 履修手続

- (1) 学生は、当該年度に履修しようとする授業科目を、年度初めの指定された期間内に所定の手続により登録しなければなりません。
- (2) 履修登録は、春学期において年間(春・秋学期)登録を行うことが望ましいです。
なお、秋学期(第3、第4ターム)開設授業科目については、秋学期開始時に修正可能です。
- (3) 履修登録をしていない授業科目については、単位は与えられません。
- (4) 学年ごとに履修登録の締切日を指定する場合があるので、その際は指示に従ってください。

5) 修得単位の取消し

既に修得した単位は、取り消すことができません。ただし、授業料若しくは入学料の未納を理由として除籍された場合又は試験における不正行為により懲戒処分を受けた場合は、この限りではありません。

6) 履修方法

- (1) 学生は、所属する課程、専攻・コース・プログラムに開設された授業科目を履修しなければなりません。ただし、履修上必要と認められた科目については、この限りではありません。
- (2) **授業科目は、標準開設学期において履修することが原則です。**
- (3) 同一のターム・曜日・時限において2つの授業科目を履修することはできません。
- (4) 自由選択として履修する場合、教養科目、教育創成科目、教育基礎科目及び専攻科目（「卒業研究」を除く。）の授業科目から履修することができます。ただし、他の課程、専攻・コース・プログラムに開設された授業科目を履修する場合は、授業担当教員の承諾を得なければなりません。

7) 標準開設学期以外の履修

- (1) 授業科目は、標準開設学期において履修することを原則としていますが、**授業担当教員の承諾を得て**、1年次上位の標準開設学期に開設されている授業科目を履修することができます。

8) 履修登録単位数の上限(CAP 制)

本学では学生の主体的で計画的な学習(それぞれの授業科目の予習・復習の時間を含む。)を促すため、CAP制を導入しています。

1～3年次は、各学期における履修登録単位数は 28 単位、年間では 52 単位(C類は 56 単位)が上限となります。

ただし、以下の科目についてはCAP制の対象外とし、履修登録単位数の上限を計算する際は、単位数に含まれないものとします。

- (1) 集中授業（ただし、「スタディガイド」の「標準開設学期」で集中授業として定められている科目のみ。）
- (2) 教育実習・養護実習（EP）
- (3) 再履修科目（前学期以前の成績が「F」もしくは「失」の科目）
- (4) 諸資格科目のうち、司書教諭、司書、社会教育主事、学芸員、社会福祉士、及びスクールソーシャルワーカーの資格取得のための科目
※「スポーツ指導者関連資格」，「登録日本語教員」の取得に必要な全科目及び「学校司書」のみに必要な授業科目となっている以下の授業科目は、CAP制の対象外とはなりません。〔履修登録単位数の上限を計算する際に含まれます。〕

【学校司書のみに必要な授業科目】

「教育の理念と歴史」「教育心理学」「特別支援教育の理解」
「教育課程の理論と実践」
「特別な教育的ニーズの理解と支援」（いずれも教育基礎科目）

- (5) 語学技能検定（p. 34 参照）や留学等による認定科目

また、4年次は、全ての授業科目をCAP制の対象外（履修登録単位数の制限無し）とします。

9)卒業研究の受講条件

当該教室が指定した授業科目の単位修得を受講条件とする場合があります。コースガイドも併せて確認してください。

10)履修制限

授業の教育効果を高めるために、以下の授業科目については、履修制限を行う場合があります。

- (1) 標準履修年次での履修が望ましい授業科目
- (2) 教室の収容人数等により履修制限が必要な授業科目
- (3) 履修クラスが指定されている授業科目

11)試験等

- (1) 試験は、授業科目毎の授業期間内で次のとおり行うものとします。
 - ① 学期毎に終了する授業科目にあつては、学期末とします。
 - ② ターム毎に終了する授業科目にあつては、各ターム末とします。
 - ③ 通年編成の授業科目にあつては、学年末とします。
- (2) 上記(1)にかかわらず、論文、作品等を課し、学年末又は学期末試験に代えることがあります。

12)追試験

- (1) 傷病、災害等やむを得ない事情のために試験等を欠いた者で、出席時数を充足している者に限り、願い出により追試験を行うことができます。
- (2) 上記(1)により追試験を受けようとする者は、所定の追試験願に診断書等必要な証明書を添付し、授業終了後1週間以内に学務課を経て、授業担当教員の承認を得なければなりません。
- (3) 追試験は、次学期開始後1ヵ月以内に実施するものとします。ただし、傷病、災害等やむを得ない事情が次学期開始後まで継続した場合は、その事情解消後1ヵ月以内に行います。
- (4) 上記(3)にかかわらず、卒業年次の追試験の期間はその都度定めます。

13)再試験

不合格の認定を受けた授業科目の再試験は行いません。

14)成績評価の方法

- (1) 成績評価は、学期末に行うことを基本とし、通年編成の授業科目にあつては学年末に行うこととします。ただし、国際課で「留学」の許可を受けて海外の大学等に留学する学生が履修する通年編成の授業科目の成績評価については、学期末に行います。
- (2) 教育実習(A～C類向け副免用の小・中学校教育実習及び選択科目は除く。)の成績評価(以下「総合評価」という。)は、学期ごとに行う評価(以下「中間評価」という。)を総合して行います。
- (3) 中間評価に不合格があつた場合、総合評価を合格とすることはできません。ただし、当該不合格の部分を履修し合格した場合は、総合評価を合格とします。
- (4) 上記(1)による学生が履修する、通年編成の授業科目の成績評価は、上記(3)を準用します。

15)成績通知

学生への成績通知は、次学期開始までに行われます。

16)評語及び配点基準

成績に関する評語及び配点基準は、次表のとおりとなります。

評 語	区 分	内 容
S・A・B・C 合	合 格	高得点順にS・A・B・Cに区分する。 合は、自己創造のための教育体験活動及び総合インターンシップ科目について適用する。
F 否	不 合 格	試験等の成績が不合格と判定されたもの 否は、自己創造のための教育体験活動及び総合インターンシップ科目について適用する。
失	失 格	出席時数が3分の2に満たない者又は途中で授業を放棄した者(試験の無断欠席を含む。)試験における不正行為により懲戒処分を受けた者
追	追 試 験	出席時数が3分の2以上で、傷病、災害等やむを得ない事情のために学期末又は学年末試験等を欠き、願い出た者
N(R)	認 定	学則第25条の規定による留学生の認定単位
N(G)		学則第6条の規定による既修得単位の認定
N(K)		学則第7条の規定による既修得単位の認定
N(T)		学則第23条の規定による既修得単位の認定

評 価	配点基準 (100点満点)	基 準
S	100～90	到達目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果を収めている。
A	89～80	到達目標を十分に達成している。
B	79～70	到達目標を達成している。
C	69～60	到達目標を最低限達成している。
F	59以下	到達目標を達成していない。

17)学芸ポータルおよび学生情報トータルシステム

本学では、学生の皆さんに学内の情報を発信するために、「学芸ポータル」というポータルサイトを用意しています。大学の行事、スケジュール、学務課や授業担当教員からのお知らせは、学芸ポータルを使用してお伝えします。(メールを使用する場合もあります。)

(URL <https://gportal.u-gakugei.ac.jp/portal/home>)

また、皆さんの修学を支援するために「学生情報トータルシステム」を用意しています。学生情報トータルシステムには、履修登録、成績確認・印刷、教育実習、介護等体験の登録、オフィスアワー、シラバス、休講情報の閲覧等の機能が搭載されています。

(URL <https://tgulc.u-gakugei.ac.jp>)

9 GPA(グレード・ポイント・アヴェレージ)による成績評価

学生自身が学年の初めに1年間の学習計画を十分に立て、自分の学習目標をしっかりと定めたうえで、履修する授業科目を選択させることを目的に、平成15年度からGPA(グレード・ポイント・アヴェレージ)による成績評価制度を導入しています。

GP(グレード・ポイント)とは、授業科目の成績(S・A・B・C・F)に与えられた点数(4・3・2・1・0)を意味し(表1を参照)、GPAとは、GPの単位当たりの平均値です。

GPAの算出方法は、各科目のGPにその科目の単位数を乗じた数の合計を、履修登録した科目の総単位数で割ります。

履修した結果、「不合格(F)」あるいは履修登録した科目数が多すぎて途中で授業を放棄した結果、「失格(失)」となった科目が多いなど、成績評価が低ければ、GPAの値も低くなります。

GPAの値が4.0に近ければ、学習の到達度が高いと評価され、反対に0.0に近ければ、学習の到達度は低いと評価されます。

従って、学年の初めに学習計画を十分に立て、自分の学習目標をしっかりと定めたうえで履修する科目を選択してください。

なお、S・A・B・C・F・失の評価を行わない科目は、GPAの対象としません。

GPAは、各学期終了後に通知する成績通知書に記載されます。

GPAは指導教員にも通知され、学習の到達度が低いと判断された学生に対しては、学習指導や助言等を行ないます。

表1: GP (グレード・ポイント)

評価 (グレード)	GP
S	4.0
A	3.0
B	2.0
C	1.0
F	0.0
失	0.0

4.0・・・3.0・・・2.0・・・1.0・・・0.0

←高い <学習到達度> 低い→

【GPA (グレード・ポイント・アヴェレージ) の算出例】

算出方法: 各科目のGPに、その科目の単位数を乗じた数の合計を、履修登録した科目の総単位数で割ります。

(例)

日本国憲法=S (4.0×2単位) 人権教育=A (3.0×2単位) 情報処理=B (2.0×2単位)
教育心理学=B (2.0×2単位) 社会学 =C (1.0×2単位) 生物学 =F (0.0×2単位)
英語学 =失 (0.0×2単位)

※履修登録単位数は、14 単位

※取得単位数は、10 単位

※GPの総和 (24) ÷ (14 単位) =1.714

※GPAは、1.71 (四捨五入)

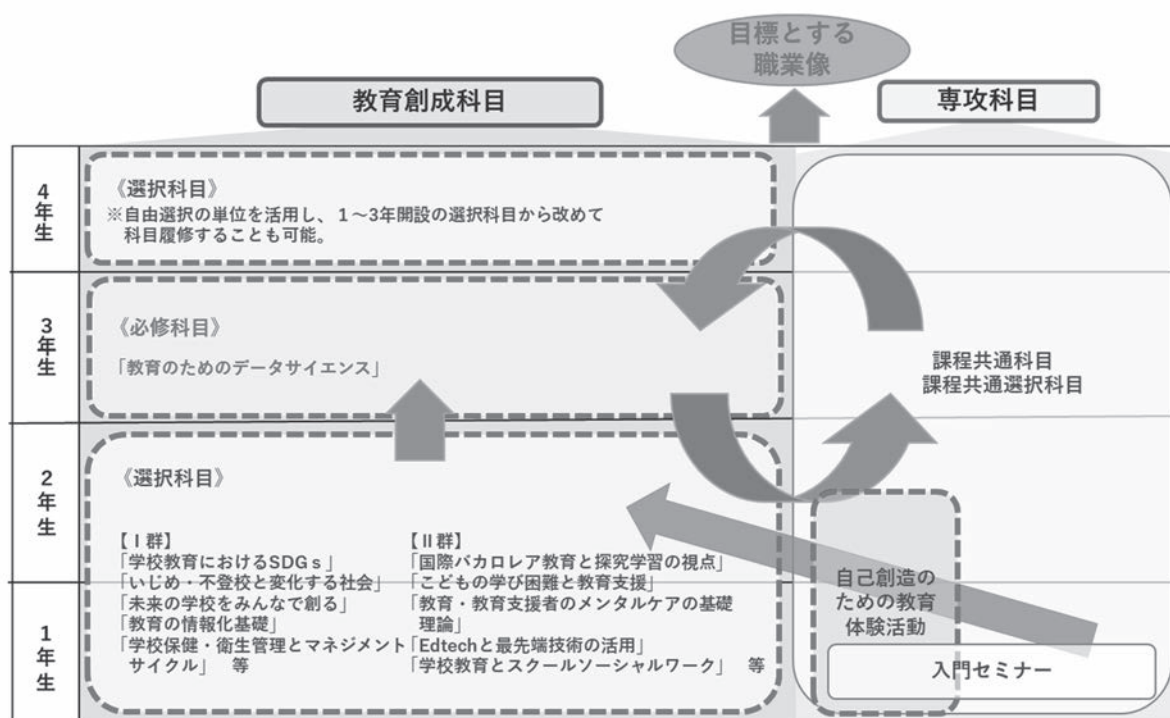
10 自律型カリキュラムデザイン

目標とする教育者像をイメージしながら皆さんが各自の学びのテーマを設定し、そのテーマに基づいた履修計画をデザインする仕組みです。教育の様々な課題について先端的な内容を学ぶ教育創成科目（科目の詳細はP.45～を参照）を中心に各自の履修計画を立ててください。

【自律型カリキュラムデザインにかかるスケジュール】

入学時のオリエンテーション等に加え、1年春学期に開設される「入門セミナー」等の履修により発見した課題認識に基づき、教育創成科目の履修計画を自らデザインすることになります。教育支援課程は、将来、教育現場のさまざまなニーズに応えうる人材の育成を目指しています。めざす職業は多岐に渡りますが、自らの目指す職業像を考え、それぞれ学びたい領域や高めたい専門性に近づく科目を履修していくことになります。1, 2年生の早くから教育現場を体験したい場合には、「自己創造のための教育体験活動」も用意されています。

●自律型カリキュラムデザイン（教育支援課程の場合）



自律型カリキュラムデザインにかかる主要な説明会や授業科目等は次の通りです。

① 大学実施の説明会

入学時のオリエンテーションなどで自律型カリキュラムデザインの概念を説明します。

② 入門セミナー

1年生春学期に開講される全学必修科目で、本学で学ぶことの意味や大学生活の過ごし方

を学びます。この授業のなかで、自律型カリキュラムデザインにかかる内容を扱う授業回があります。

③ 自己創造のための教育体験活動

学校現場等で一定期間の体験活動を行う科目です。教職や教育支援の意義や魅力を体感したり、その課題に気づいたりすることを目的としており、自律型カリキュラムデザインのテーマ設定のきっかけや、振り返りの機会となることが期待されます。早期に学校現場等での実践を知る貴重な機会となっております。

※当該科目の履修にあたっては、定期的に行われるオリエンテーションへの参加が必須です。事前の履修登録は不要です。

④ 教育創成科目

自律型カリキュラムデザインの中核となる科目（科目の詳細はP.45～を参照）。自らのテーマ設定に基づき、選択科目の履修計画をたててください。

1 1 インターンシップ、多摩地区国立5大学単位互換制度

大学での学びは学内にとどまるものではありません。特に今日では、学内で自分の専門を深く追求するとともに、学外に出て、実践的な力を身につけることが強く求められています。ここで取り上げるインターンシップはその代表的な機会です。

I インターンシップ

インターンシップとは、学生の皆さんが実際の職業現場に出向き、そこで職業活動を体験することを行います。大学では、将来の就業への円滑な移行を支援するために、大学教育に資する学生の学外活動を単位化し、皆さんの積極的な参加を呼びかけています。

なお、インターンシップの単位化を希望する学生は、毎年開催されるインターンシップに関するガイダンスに必ず参加してください。

1. インターンシップの対象となる活動

対象となる活動は次の3種類のインターンシップです。

- ①官公庁が実施するインターンシップ
 - ②美術館、博物館、公共ホールなど公的機関、あるいは非営利団体によるインターンシップ
 - ③企業によるインターンシップ
- ※ 単位取得のための要件があります。詳しくは、ガイダンスで配付する履修ガイドを参照すること。

2. インターンシップ科目の配置・単位認定

1)授業科目名・科目数

「総合インターンシップA・B」の2科目（各2単位）

2)履修条件

- ・履修時に3年生以上の学生であること。
- ・この科目の単位が修得できないと卒業要件が満たせないという状況ではないこと。
- ・大学が実施する「インターンシップガイダンス」を受講していること。
- ・大学の授業に支障がないこと。

3)単位認定と成績評価

- ・修得した単位は「自由選択」になります。
- ・「単位」修得には、1つの企業・公（共）的機関で60時間以上のインターンシップを行う必要があります。
- ・活動計画、活動報告、インターンシップ先の発行する活動証明書を総合的に判断して、合否を決定します。

3. 単位認定手続きの注意事項

1)「総合インターンシップA・B」

実施年度：大学経由、若しくは個人で企業等へ応募→選考等ののち受け入れ確定→

大学へ受け入れ確定及び単位修得意思を報告→大学と受け入れ先で覚書の取り交わし

→大学へ活動計画書提出→インターンシップ→評価書の作成・提出→単位認定

2)活動計画・活動記録・活動報告

履修者は、事前に活動計画を作成提出し、活動中は活動記録をとり、事後には活動報告を提出することになります。

3)活動期間

インターンシップは、大学の授業に支障を来たさないように、空き時間（長期休暇中も含め）に行います。インターンシップの期間は、春～秋学期にわたってもよいですが、年度を超えることはできません。単位認定の関係で、当該年度の1月末日までに60時間以上のインターンシップを終了しなければなりません。

Ⅱ 多摩地区国立5大学単位互換制度

本制度は、多摩地区国立5大学単位互換に関する協定に基づき、大学間の相互の交流と教育課程の充実を図ることを目的としています。この制度は、在学中に参加大学で授業科目を履修し、修得した単位を本学の単位として認定します。

(参加大学) 東京外国語大学、東京農工大学、一橋大学、電気通信大学、東京学芸大学

1. 出願資格

派遣時に2年生以上の学部学生（ただし、卒業年次の学生は、卒業予定月を含む学期の授業科目（通年科目を含む）に係る出願はできない。）

2. 派遣スケジュール

	春学期派遣	秋学期派遣
案内	1月中旬	6月中旬
申請期間	1月下旬	6月下旬
決定通知送付	3月下旬	9月下旬
派遣期間	各大学の授業暦による	同左
成績反映	10月ごろ	4月ごろ

※ 派遣スケジュールは、都合により変更になる場合があります。
掲示等を必ず確認するようにしてください。

3. 留意事項

- ・出願にあたっては、事前オリエンテーションに必ず参加し、各大学の募集要項を確認してください。
- ・受講希望者が多い授業科目は、順位を付して推薦します。
- ・修得した単位は、本学において修得した単位（自由選択）として認定されます。
- ・協定に基づき、検定料・入学科・授業料は徴収しません。
- ・秋学期に履修した科目は翌年度4月頃に単位が認定されるため、4年次の秋学期は履修できません。

12 指導教員制度と指導体制

本学では、学生が在学期間中学習目標を持ち健全な学生生活を送ることができるよう、入学時から各学生に指導教員を定め、修学、進路、学生生活全般にわたり指導・助言を行うことになっています。

指導教員は、学生の所属する課程・専攻・コース・プログラムを所管する教室の教員があたり、適切な機会を設定して定期的に指導学生との面談等を通じて指導・助言を行います。

また、指導教員は担当する学生が、休学・復学・退学など学生の身分異動が生じる場合や奨学金などの申請を行う場合、教育実習を申し込む場合など学生から事情を聞いて学長に具申するなどの仕事も受け持つなど、皆さんの学生生活に密接に関係しています。

※指導教員は、学生の所属する教室によって定め方が異なります。

(指導教員の主な役割)

指導教員は、担当する学生の修学、進路等学生生活全般にわたり指導・助言を行うものとし、次の役割を担います。

1. 適切な機会(オフィスアワー、教室による学生面談週間等)を設定し、定期的に学生と面談する。
2. 学生の単位の修得や成績などの修学状況を把握し、学生の進路希望等に応じて適切に指導・助言を行う。
3. 学生からの相談に応じ、必要な指導・助言を行う。
4. 学生の身分異動、各種奨学金の申込み、教育実習の申請等に際して、公正な意見書を作成し学長に具申する。
5. 担当する学生に不測の事態が発生した場合は、必要な対応を行う。

13 オフィスアワーについて

本学では、学生が本学において快適な生活を送り、学習・研究に専念できるよう、教員が学生からの授業や修学に関する質問・相談を受け付け、支援するための時間帯を設定したオフィスアワー制度を実施しています。

詳しいオフィスアワーの時間帯については、学生情報トータルシステムを通じて掲載します。

14 学生による授業アンケート

本学では各授業科目について、「学生による授業アンケート調査」を実施しています。

学生が授業内容を理解し、知識や技能を習得したか、そして授業の内容や方法が学生にとって適切であったかをアンケート調査し、教員が今後の授業の内容や方法を改善していくためのものです。

アンケート調査の全体の集計結果は全学に公表されます。これらの結果は今後のカリキュラムの検討資料としても利用されます。アンケート調査は全学的には学期末に実施されますが、授業によっては学期の途中で実施することもあります。

アンケートでは記載者が個人的に特定されないように配慮されています。

「学生による授業アンケート調査」は、教員の授業能力を評価するものではありません。授業改善に直接かかわりの無い記載は、集計から除外される場合もあります。

授業アンケートの内容(Q16は教員の自由設定)

- Q1 : シラバス等により、授業開始時に適切に示された項目を全て選択してください。
- Q2 : 授業の目標に応じた知識や能力が身についた。
- Q3 : 毎回の授業の目標は明確だった。
- Q4 : (自由記述) その理由を具体的に下の欄に記載してください。
- Q5 : 授業の進む速さや内容の量は適切だった。
- Q6 : (自由記述) その理由を具体的に下の欄に記載してください。
- Q7 : 話し方や資料の提示方法など授業の実施方法は適切だった。
- Q8 : (自由記述) その理由を具体的に下の欄に記載してください。
- Q9 : 授業理解を助ける工夫となっていたものは何ですか。(複数回答可)
- Q10 : (自由記述) Q9に関連して授業に取り入れて欲しい工夫を具体的に下の欄に記載してください。
- Q11 : 教室の広さ、機材、空調設備等に問題はなかった。また、遠隔授業を受講するにあたって、Webclass, Stream, Teams 等のツールの利用等に問題はなかった。
- Q12 : (自由記述) Q11に関連してあなたが問題だと思った点を具体的に下の欄に記載してください。
- Q13 : 予習・復習・レポート等に充てた時間は、1回の授業に対して、平均してどの程度でしたか。最後の授業が終わるまでの学習時間を含めて回答してください。(教員から指示を受けた課題作成への対応や、リアクションペーパー作成、試験準備等を含む。)
- Q14 : この授業内容についてみずから学習する意欲が高まった。
- Q15 : (自由記述) その理由を具体的に下の欄に記載してください。
- Q16 : 自由設定(選択式(5択))

※令和5年度(秋)授業アンケート

15 履修基準

教育支援課程(E類)

科 目 等			コース	生涯学習・文化遺産教育	カウンセリング	ソーシャルワーク	多文化共生教育	情報教育	表現教育	生涯スポーツ
教 養 科 目	総合学芸領域（CA）			14	14	14	14	14	14	14
	健康・スポーツ領域（CH）			2	2	2	2	2	2	2
	語学領域（CL）（英語2＋初習語学4）			6	6	6	6	6	6	6
	計			22	22	22	22	22	22	22
教 育 創 成 科 目				7	7	7	7	7	7	7
専 攻 科 目	課程共通科目（SS）			6	6	6	6	6	6	6
	コースに関する科目	必修科目（S）		20	22	12	14	22	12	10
		選択科目A（SA）		42	40	50	48	40	50	52
		選択科目B（SB）		－		－				
	課程共通選択科目（SC）			4	4	4	4	4	4	4
	卒 業 研 究（SZ）			4	4	4	4	4	4	4
	計			76	76	76	76	76	76	76
自 由 選 択 ※ p.3 参照				19	19	19	19	19	19	19
合 計				124	124	124	124	124	124	124

16 卒業要件

本学に4年以上在学し、課程ごとに定める履修基準により所定の単位を修得した者について、教授会の議を経て、卒業を認定します。

17 開設授業科目一覧の見方

1 開設授業科目一覧の見方

開設授業科目記載例

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考
人権教育	2	講	I・II			必修
中国古典文基礎	2	講	I	漢文学		
卒業研究	④		VII/VIII			
ラグビー	1	実	IV【偶】	体育実技		
文字文化と書写指導	1	演	III前後	大学独自(幼, 小, 中, 高, 養)		
医学概論	2	講	II		社会福祉士	

2 「授業科目」欄

授業科目の正式名が記載されている。

3 「単位数」欄

授業を履修し、修得できる単位数が記載されており、「1」は半期(春学期又は秋学期)またはターム(第1～第4ターム)で1単位修得できることを示し、「④」は通年(1年間)で4単位修得できることを示す。

4 「講演実」欄

授業の形態が記載されており、「講」は講義を、「演」は演習を、「実」は実技、実験又は実習を示す。

5 「標準開設学期」欄

ア「I」は1年春学期を、「II」は1年秋学期を……「VII」は4年春学期を、「VIII」は4年秋学期を示す。

イ「I」は1年春学期に開設することを示す。

ウ「I・II」は1年春学期から1年秋学期にかけて通年で開設することを示す。

エ「I・II」は、1年春学期と1年秋学期にそれぞれ開設することを示す。

オ「I前」は、1年の第1ターム(春学期の前半)に開設することを示し、「II前後」は1年の第3, 4ターム(秋学期の前後半)にそれぞれ開設することを示す。

カ「奇」は、奇数年度に開設されることを示し、「偶」は、偶数年度に開設されることを示す。

キ「集中」は、通常の授業時間枠以外の特定時期に、集中して授業を行う科目であることを示す。

ク 授業科目は標準開設学期において履修することを原則とする。

6 「免許法上の科目」欄

授業科目が教育職員免許法上、どの科目に該当するかが記載されている。

7 「諸資格」欄

授業科目がどの資格の取得に必要な科目かが記載されている。

8 「備考」欄

授業科目の履修上の注意等が記載されている。特定の科目区分内で必修と選択必修が混在している場合、必修科目に「●」などの記号を付して区別している。また、選択必修の中で更に詳細な選択必修を設定している場合は、「○, □, △」などの記号を付して区別している。

18 教養科目

教 養 科 目

教養科目は、教育や教科の基礎となる概念や学習技術を幅広い視点から学ぶとともに、大学生として、そして社会の中に生きる人間として、必要な教養を身につけるための科目群です。これらは、「総合学芸領域」(CA)、「健康・スポーツ領域」(CH)、「語学領域」(CL)の3つの領域からなり、それぞれの領域において定められた単位を修得しなければなりません。

総合学芸領域 (CA)

4つの分野

「総合学芸領域」は、後述の必修科目のほか、(A)教養総合科目、(B)心理学、哲学、思想、文学、芸術、(C)生活・地域文化、歴史、社会、多文化共生、(D)自然科学・環境・情報の4つの科目群（分野と呼びます）から構成されます。履修方法は、36ページの上段に記載されています。

総合学芸領域の科目履修

「総合学芸領域」の科目については、必ず修得しなければならない単位数は14単位（7科目）ですが、みなさんの興味と関心に従って、これ以上の単位を履修し、修得することも可能です。ただし、学校教育教員養成課程および教育支援課程いずれの場合も、「日本国憲法」（2単位）、「人権教育」（2単位）、「A I時代の情報」（2単位）は必修科目です。以下に記された分野ごとの解説をよく読み、履修してください。

必修科目

「日本国憲法」

我が国の憲法を学び、法の総体を知ることによって、国家と市民を理解するための科目です。

「人権教育」

人権を学び、他との違いを理解し、その権利を認め合うことを学ぶ科目です。

「A I時代の情報」

教育職員免許法上の必修科目「情報機器の操作」に対応し、教員および教育支援者として必要な情報機器の操作を題材とした実習を含んだ授業形態をとります。ただし、ワードプロセッサや表計算等のアプリケーションソフトウェアの具体的な使用方法を教授する授業ではなく、情報科学や情報技術にまつわる概念や原理を説明し、それらを履修者が深く理解したり適切かつ効果的に活用したりすることができるようになるための実習を行う科目です。

分野別科目案内

■ (A) 教養総合科目：学びの基本を体得する

この分野には特に、大学での学びの基本的な姿勢や方法を身につけることを目的とした科目群を配しています。「学びの主体」としての自分自身やアイデンティティのあり方、学問分野を超えた「学びの技法」、みなさんの属する大学という「学びの場」の広がり、さらにはこれからのキャリアを形成していく上での「学びの戦略」を立てて実践するための、四領域の基本的な科目群です。これらの履修を通じて、それぞれが大学での学びの足場を固めることが期待されています。

■（Ｂ）心理学、哲学、思想、文学、芸術：人間存在の根源を探究する

この分野には主に心理学・哲学・思想・文学・芸術といった、人間の存在や営みについて深めるタイプの科目群を配しています。「人とは何か」「人の知的営為はどんなされるのか」「言語と思考様式はどのように関わるか」「人は何故に美を感じるのか」「文学はどのように世界と関わるのか」等々、みずみずしい感性を持つ学生時代に、これらの科目の履修を通して、自分なりの人間観・世界観を育んでいくことが期待されています。

■（Ｃ）生活・地域文化、歴史、社会、多文化共生：社会構造・原理を探究する

この分野には主にいわゆる社会科学系の諸科目に加え、生活文化や歴史、地域文化、多文化共生等に関わる、社会の多様性や広がりを知るタイプの科目群を配しています。国際化の進展が著しい現在は、多様な言語・社会・文化を有する人間の相互理解が求められています。多様で多彩な社会・文化を構造的に理解することは、幅広い世界観・人生観を育むことにつながります。そうしたものの見方を基に、身の回りの生活に関することがらを捉え直すことが、これらの科目の履修を通して期待されています。

■（Ｄ）自然科学・環境・情報：自然界の原理を探究する

この分野には、狭義の自然科学にとどまらず、環境や情報といった広領域の分野も含め、世界の様々な事象を科学的に解明するタイプの科目群を配しています。われわれの生きる地球や、それを取り巻く環境、そこにある様々な物質はどのような組成を持ち、どのように相互に関連しているのか。そしてそれらをどのように情報として捉え、分析していくのか。こうしたものの見方を身につけ、今後の持続可能な目標をともに考えていく基礎を養うことが、これらの科目の履修を通して期待されています。

外国人留学生短期プログラム科目（英語による授業について）

本学では、短期で来日する留学生のために英語による科目が開設されています（International Student Education Program = ISEP）。その中のいくつかの授業がこの「総合学芸領域」として、日本人の学部生との共修科目に設定されています。同じトピックに対しても見方・考え方の異なる留学生たちと一緒に授業の中で学ぶことを通して、単なる交流や語学力の伸張だけでなく、グローバルな視野を身につける機会として積極的に活用してください。

健康・スポーツ領域（CH）

「健康・スポーツ領域」とは

健康・スポーツ領域は、知性、感性、身体性の統合的な教育によって教養を深めようとする「共通科目」の理念を実現するために設けられました。「健康・スポーツ領域」の授業を履修することによって、身体にかかわる教養と技能を身につけ、現在の大学生生活の充実を図ることができます。この身体的教養と技能とは、次のようなことを意味しています。

- ・スポーツ文化に対する深い認識
- ・生活の場で積極的に運動やスポーツに取り組む態度
- ・良好な人間関係を作り出す能力
- ・大学生として必要な自己健康管理能力
- ・生涯にわたる健康づくりや管理に関する知識と技能

このような教養や技能を培うことによって有為な社会人、さらに教育者・指導者として基礎的な素養を身につけることをこの領域の大きなねらいとしています。

「健康・スポーツ領域」のねらいと性格

基礎的な「生涯スポーツ」の理論と実践の場を提供する授業です。これらの授業を通じて、基礎的な体力の向上や運動・スポーツ技術の学習、また体力科学を中心とした幅広いスポーツ、身体についての基礎知識を身につけることを主な目的としています。

このため、これらの授業は学校教育教員養成課程の学生だけではなく、教育支援課程の学生に対しても必修として位置づけられています。教員免許の取得希望の有無にかかわらず、全学生は必ず指定された学期にこれらの科目を履修してください。このコースは履修学生の定員と施設を考慮して開設してありますので、やむを得ず再履修をしなければいけない学生を除いて、指定された学期以外での履修はできません。

このコースには原則として実技である「スポーツ・フィットネス実習」、理論である「ウェルネス概論」がそれぞれ開設されています。

「スポーツ・フィットネス実習」

「スポーツ・フィットネス実習」は、半期の定期コースと集中コースから構成されています。クラスに指定された標準的な科目の中から、自分の希望する内容の実習を自由に選択することができます。(受講希望者の人数によっては調整することもあります。)

受講希望の抽選は最初のオリエンテーション時に行いますので、必ず出席してください。

心身に何らかの障害がある場合や、病気や怪我のため、「スポーツ・フィットネス実習」を他の学生と同じプログラムで参加が困難な学生には、特別なプログラムを用意しています。

「ウェルネス概論」

「ウェルネス概論」では、「ウェルネス」という考え方、すなわち「各人がそのライフスタイルを自己変容することにより効率的で、生産性の高い生活を営むことを不断に目指すこと」を理論的に理解し、実践できることをねらいとしています。具体的には、個人のライフスタイルに影響を与える構成要素である運動、食生活、休養、ストレス等とライフスタイルとの関係を明らかにするとともに、健全なライフスタイルの形成に向けて身体的、知的、情緒的、精神的、社会的な側面で積極的に取り組むための方法や知識の講義が行われます。

「ウェルネス概論」においても「スポーツ・フィットネス実習」同様に、指定された時間枠内で異なった内容の講義が開講されていますので、自分の希望に合った内容の講義を選択し履修します。「スポーツ・フィットネス実習」とは異なり全体でのオリエンテーションは行いませんので、直接希望する教室に最初の授業から参加してください。

語学領域 (CL)

必修科目

英語コミュニケーション

「英語コミュニケーションA」

「英文を音読して、訳して終わり」では本当に英語を使ったことにはなりません。この科目では英語で読んだり聞いたりして得た情報について簡単な英語で口頭発表できるようになることを目指します。コミュニケーションの重要性が叫ばれる昨今ですが、まず英語で情報を得ることが大切です。いきなり英語で口頭発表となると日本語から訳してしまいがちです。情報を得たら、それをまとめて英語で発表、簡単なスピーチをすることが大切です。

「英語コミュニケーションB」

この科目では英語で得た情報をもとにクラスメートとの意見の交換を行えるようにします。まず英語で情報を得ることで始まる点は「英語コミュニケーションA」と変わりますが、この科目では、一方的に口頭発表するだけではなく、クラスメートの発表を聞いてどう思うかなどの意見交換をします。

初習語学

今日の多言語多文化社会において、世界のさまざまな国の人々と互いに理解し合うためには、「ことば」がとても重要なアイテムとなります。また、いろいろな国から来られた多くの留学生も本学で学んでいます。本学では、英語はもちろんのこと、英語以外の外国語教育にも力を入れています。皆さんは、初めて学ぶ英語以外の外国語（初習語学）として、ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語、イタリア語、スペイン語を1年次で履修することができます。「ことば」の力を大いに活用して、大学生活、研究活動、そして就職へとつなげていくことを期待します。

「〇〇語基礎Ⅰ」

主に発音から学び、初級文法や簡単な会話を学びます。

「〇〇語基礎Ⅱ」

「聞く・話す・読む・書く」ための基礎的な力を総合的に養います。

「〇〇語基礎Ⅲ」

基礎Ⅰ・基礎Ⅱをベースとして、中級レベルの文法や会話などを学びます。

「〇〇語基礎Ⅳ」

「聞く・話す・読む・書く」ための総合的なレベルアップを行います。

選択科目

英語

■トピック別科目

「メディア英語A・B」

新聞、ニュース誌、テレビ、インターネット、テレビドラマ、映画などを用いて、メディアで使われる英語表現を習得します。

■技能別科目

「英語リーディングA・B」

さまざまな題材を用い、英語リーディング能力を養います。

「英語リスニング&スピーキングA・B」

リスニング、スピーキングを中心に、英語の実践的コミュニケーション能力を養います。

「上級英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」

ディベートを含むオーラルコミュニケーション能力を高めます。

「上級英語ライティングⅠ・Ⅱ」

高度な英語の文章や英語の論文を書く訓練を行います。

■集中演習

「英語集中演習A・B・C」

文法や和訳はさんざん学んだけれど、英語を実際にある期間集中して使ってみる機会がない、使ってみたくてうずうずしている。そんな人いますよね。そういう人たちに最適なのがこの科目です。1年分の演習を夏や秋の休暇中、1週間から10日間集中して行います。授業は少人数制で、内容は、英語の歌あり、ゲームあり、ディベート、ディスカッションあり、と盛りだくさんです。集中的に英語にどっぷり浸って、いつの間にか英語に慣れてしまいましょう。文法や発音の間違いなんか気にする必要はちっともありません。言いたいことを片言の英語でいいから相手に伝えましょう。このコースの後には充実した達成感と心地よい疲労感があるはずです。「英語集中演習A」は上級レベル、「英語集中演習B・C」は中級レベルです。

選択外国語

初習語学を履修したのち、語学力のブラッシュアップのために、2年次に以下の科目を履修することができます。ただし、ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語のみの開設となりますので、ご注意ください。

■ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語

「〇〇語コミュニケーションAⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ」

日常的な会話や表現を学びます。

「〇〇語表現」

高度な会話能力や表現能力を養います。

「〇〇語プレゼンテーション」

高度なプレゼンテーション能力を養います。

○語学技能検定に関する単位の認定について

大学以外の教育施設等における学修において一定以上の級・スコアを有している者は、**所定の手続き（単位認定申請）**により、本学の授業科目の単位として認定する事ができる。

申請希望者は、下記の申請期間内に、学務課に申請書類を提出してください。

申請期間： 春学期 4月1日～ 4月末日
秋学期 10月1日～ 10月末日

【注意事項】

- ・申請期間は掲示で周知します。期限を過ぎたものは一切受付けないので注意してください。
- ・休学期間中は、申請および認定を受けることはできません。

申請書類： ① 大学以外の教育施設等における学修に係る単位認定申請書（大学所定書式。申請者本人の署名と指導教員の確認が必要です。）
② 該当する学修についての証明書の写し（合格通知書等では受け付けられません。）

大学以外の教育施設等における学修の種類及び級・資格等			履修したとみなす授業科目 及び認定する単位数
実用英語技能検定（(公財)日本英語検定協会）		2級以上	以下科目の1単位まで ・英語コミュニケーションA または ・英語コミュニケーションB
TOEFL (Educational Testing Service)	Paper-Based Test	480点以上	
	Computer-Based Test	157点以上	
	Internet-Based Test	54点以上	
TOEIC (Educational Testing Service)	Listening & Reading Test	600点以上	
IELTS		5.0以上	以下科目の2単位まで ・英語コミュニケーションA ・英語コミュニケーションB 及び以下科目の2単位まで ・メディア英語A ・メディア英語B ・英語リーディングA ・英語リーディングB ・英語リスニング & スピーキング A ・英語リスニング & スピーキング B ・英語集中演習A ・英語集中演習B ・英語集中演習C ・上級英語コミュニケーションI ・上級英語コミュニケーションII ・上級英語ライティングI ・上級英語ライティングII の合計4単位まで
実用英語技能検定（(公財)日本英語検定協会）		準1級 1次試験 合格以上	
TOEFL (Educational Testing Service)	Internet-Based Test (IBT)	80点以上	
TOEIC (Educational Testing Service)	Listening & Reading Test	730点以上	
IELTS		6.0以上	

大学以外の教育施設等における学修の種類及び級・資格等		履修したとみなす授業科目 及び認定する単位数
漢語水平考試 (HSK) ((一社)日本青少年育成協会 HSK日本実施委員会)	5級 (195点) 以上	中国語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 4単位まで
中国語検定 ((一財)日本中国語検定協会)	2級以上	
韓国語能力試験 ((公財)韓国教育財団)	TOPIKⅠ (初級)の 2級以上	コリア語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 4単位まで
ハングル能力検定試験 (NPO法人ハングル能力検定協会)	4級以上	
ドイツ語技能検定試験 ((公財)ドイツ語学文学振興会)	2級以上	ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 4単位まで
Goethe-Zertifikat (ゲーテ・インスティトゥートドイツ語検定試験)	B1以上	
ÖSD: Das Österreichische Sprachdiplom Deutsch オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験	B1以上	
実用フランス語技能検定試験 ((公財)フランス語教育振興協会)	2級以上	フランス語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 4単位まで
DELF : Diplôme d' Etudes en Langue Française (フランス国民教育省フランス語学力資格試験) (アンスティチュ・フランセ日本)	B1以上	
TEF : Test d' Evaluation de Français (パリ商工会議所フランス語能力認定試験) (株) 日仏文化協会)	レベル3 以上	
TCF : Test de Connaissance du Français (フランス国民教育省フランス語学力試験) (アンスティチュ・フランセ日本)	レベル3 以上	

18 教養科目

教養科目は、各領域で定められた修得単位数を含め、学校教育教員養成課程、教育支援課程共に合計で**22単位以上**を履修する。

① 総合学芸領域(CA)

①下記の授業科目から、**日本国憲法2単位、人権教育2単位、AI時代の情報2単位の計6単位**を含め、更に(A)～(D)までの各分野2単位、計8単位を含めて**14単位以上**修得する。

②留学生は、総合学芸領域の全ての授業科目の中から、**日本国憲法2単位、人権教育2単位、AI時代の情報2単位の計6単位**を含めて**14単位以上**修得する。

③外国人留学生短期プログラム科目(短プロ)は、英語で授業が行われる。

(総合学芸領域)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	分 野 等	備 考
日 本 国 憲 法	2	講	I ・ II	日 本 国 憲 法		必修
人 権 教 育	2	講	I ・ II			必修
A I 時 代 の 情 報	2	講	I	情 報 機 器 の 操 作		必修
学芸フロンティア科目A	2	講	I		(A) 教養総合科目	
学芸フロンティア科目B	2	講	I		(A) 教養総合科目	
学芸フロンティア科目C	2	講演	I (集中)		(A) 教養総合科目	
学芸フロンティア科目D	2	講	II		(A) 教養総合科目	
学芸フロンティア科目E	2	講演	I (集中)		(A) 教養総合科目	
学芸フロンティア科目F	2	講演	II		(A) 教養総合科目	
学芸フロンティア科目G	2	講	II		(A) 教養総合科目	
学芸フロンティア科目H	2	講	I ・ II		(A) 教養総合科目	
学芸フロンティア科目I	2	講	I		(A) 教養総合科目	
学芸フロンティア科目J	2	演	II (集中)		(A) 教養総合科目	
学芸フロンティア科目K	2	講	II		(A) 教養総合科目	
学芸フロンティア科目L	2	講	I		(A) 教養総合科目	
学芸フロンティア科目M	2	講	II		(A) 教養総合科目	
学芸フロンティア科目N	2	講演	I		(A) 教養総合科目	
学芸フロンティア科目O	2	講演	I		(A) 教養総合科目	
学芸フロンティア科目P	2	講演	II		(A) 教養総合科目	
多文化共修科目A	2	演	I		(A) 教養総合科目	

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	分野等	備考
Cross-cultural Communication through Expressive Arts	2	演	I		(A)教養総合科目	短プロ
心と科学	2	講	I		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	
発達と障害の心理	2	講	I		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	
ことばと社会	2	講	I		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	
近代文学	2	講	I		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	
古典文学	2	講	I		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	
中国文化	2	講	I		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	
哲学入門	2	講	I		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	
ワークショップの技法	2	演	I		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	
合唱の楽しみ(管弦楽と共に)	2	演	II		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	
管弦楽の楽しみ(合唱と共に)	2	演	II		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	
クラシック音楽の諸相	2	講	III		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	
視覚芸術と社会	2	演	III		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	
宗教と社会	2	講	II		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	
心と健康	2	講	II		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	
多文化共修科目B	2	講	II		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	
Japanese Arts and Crafts	2	演	IV		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	短プロ
Psychology of the Japanese	2	講	I		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	短プロ
Introduction to Psychology	2	講演	I		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	短プロ
Traditional Performing Arts of Japan	2	講演	I		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	短プロ
Japanese Literature	2	講	II		(B)心理学, 哲学, 思想, 文学, 芸術	短プロ
ボランティアとNPO・NGO	2	講	II		(C)生活・地域文化, 歴 史, 社会, 多文化共生	
ジェンダーと日本社会	2	講	I		(C)生活・地域文化, 歴 史, 社会, 多文化共生	
地域・文化・環境から読む世界	2	講	I		(C)生活・地域文化, 歴 史, 社会, 多文化共生	
歴史と社会・文化	2	講	I		(C)生活・地域文化, 歴 史, 社会, 多文化共生	

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	分野等	備考
国際関係論入門	2	演	I		(C)生活・地域文化, 歴史, 社会, 多文化共生	
現代の経済	2	講	I		(C)生活・地域文化, 歴史, 社会, 多文化共生	
現代社会の諸問題	2	講	II		(C)生活・地域文化, 歴史, 社会, 多文化共生	
コマーシャルを考える	2	演	III		(C)生活・地域文化, 歴史, 社会, 多文化共生	
生活習慣病予防と運動・スポーツ	2	講	I		(C)生活・地域文化, 歴史, 社会, 多文化共生	
女性のための保健概論	2	講	II		(C)生活・地域文化, 歴史, 社会, 多文化共生	
民俗学	2	講	III		(C)生活・地域文化, 歴史, 社会, 多文化共生	
日本文化論と社会	2	講	I		(C)生活・地域文化, 歴史, 社会, 多文化共生	
人間と文化	2	講	IV		(C)生活・地域文化, 歴史, 社会, 多文化共生	
子どもの権利と現代社会	2	講	III		(C)生活・地域文化, 歴史, 社会, 多文化共生	
多文化共修科目C	2	演	I		(C)生活・地域文化, 歴史, 社会, 多文化共生	
多文化共修科目D	2	演	II		(C)生活・地域文化, 歴史, 社会, 多文化共生	
多文化共修科目E	2	演	I		(C)生活・地域文化, 歴史, 社会, 多文化共生	
多文化共修科目F	2	演	II		(C)生活・地域文化, 歴史, 社会, 多文化共生	
Cultural Studies A	2	演	I		(C)生活・地域文化, 歴史, 社会, 多文化共生	短プロ
Cultural Studies B	2	演	II		(C)生活・地域文化, 歴史, 社会, 多文化共生	短プロ
Sports in Japan	2	講	II		(C)生活・地域文化, 歴史, 社会, 多文化共生	短プロ
Cultural Diversity of Japan A	2	演	III		(C)生活・地域文化, 歴史, 社会, 多文化共生	短プロ
Cultural Diversity of Japan B	2	演	IV		(C)生活・地域文化, 歴史, 社会, 多文化共生	短プロ
Contemporary Society in Japan	2	講	I		(C)生活・地域文化, 歴史, 社会, 多文化共生	短プロ
Multicultural Education in Japan	2	講	IV		(C)生活・地域文化, 歴史, 社会, 多文化共生	短プロ
学校の基礎と展開	2	講	IV		(D)自然科学・環境・情報	
気候変動と社会	2	講	II		(D)自然科学・環境・情報	
自然と数理A	2	講	I		(D)自然科学・環境・情報	
自然と数理B	2	講	II		(D)自然科学・環境・情報	
数理の世界A	2	講	I		(D)自然科学・環境・情報	
数理の世界B	2	講	II		(D)自然科学・環境・情報	

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	分野等	備考
物質とエネルギーの物理法則	2	講	I		(D)自然科学・環境・情報	
身近な現象と化学	2	講	II		(D)自然科学・環境・情報	
生物学へのいざない	2	講	II (集中)		(D)自然科学・環境・情報	
宇宙と地球と人間	2	講	I		(D)自然科学・環境・情報	
コンピュータ・ネットワーク	2	演	II		(D)自然科学・環境・情報	
コンピュータ・アート	2	演	III		(D)自然科学・環境・情報	
コンピュータ・プログラミング	2	講演	II		(D)自然科学・環境・情報	
メディアリテラシー	2	演	III		(D)自然科学・環境・情報	
Webコンピューティング	2	講演	IV		(D)自然科学・環境・情報	
Webパブリッシング	2	講演	II		(D)自然科学・環境・情報	
科学技術と環境	2	講	II		(D)自然科学・環境・情報	
Traditional Japanese Practices	2	講	IV		(D)自然科学・環境・情報	短プロ
Issues of Global Environment	2	講	II		(D)自然科学・環境・情報	短プロ

② 健康・スポーツ領域(CH)

下記の授業科目は必修なので、2単位を必ず修得する。

(健康・スポーツ領域)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考
ウ ェ ル ネ ス 概 論	1	講	I	体 育	必修
ス ポ ー ツ ・ フ ィ ッ ト ネ ス 実 習	1	実	I・II	体 育	必修

③ 語学領域(CL)

「英語コミュニケーションA・B」の2単位及び初習語学「〇〇語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(同一言語)の4単位の計6単位を必ず修得する。

留学生は、すべての語学領域から「英語コミュニケーションA・B」の2単位を含め6単位以上を修得する。

日本語を母語としない留学生は、初習語学(〇〇語基礎)の履修について、自身にとっての「外国語」に限るものとし、自身の母語及び自身が受けてきた高等学校までの学校教育における教授言語を履修することは認めない。

(語学領域)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	履 修 区 分
英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン A	1	演	Ⅰ・Ⅱ	外 国 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	必修
英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン B	1	演	Ⅰ・Ⅱ	外 国 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	必修
ド イ ツ 語 基 礎 Ⅰ	1	演	Ⅰ		初習語学
ド イ ツ 語 基 礎 Ⅱ	1	演	Ⅱ		初習語学
ド イ ツ 語 基 礎 Ⅲ	1	演	Ⅲ		初習語学
ド イ ツ 語 基 礎 Ⅳ	1	演	Ⅳ		初習語学
フ ラ ン ス 語 基 礎 Ⅰ	1	演	Ⅰ		初習語学
フ ラ ン ス 語 基 礎 Ⅱ	1	演	Ⅱ		初習語学
フ ラ ン ス 語 基 礎 Ⅲ	1	演	Ⅲ		初習語学
フ ラ ン ス 語 基 礎 Ⅳ	1	演	Ⅳ		初習語学
中 国 語 基 礎 Ⅰ	1	演	Ⅰ		初習語学
中 国 語 基 礎 Ⅱ	1	演	Ⅱ		初習語学
中 国 語 基 礎 Ⅲ	1	演	Ⅲ		初習語学
中 国 語 基 礎 Ⅳ	1	演	Ⅳ		初習語学
コ リ ア 語 基 礎 Ⅰ	1	演	Ⅰ		初習語学
コ リ ア 語 基 礎 Ⅱ	1	演	Ⅱ		初習語学
コ リ ア 語 基 礎 Ⅲ	1	演	Ⅲ		初習語学
コ リ ア 語 基 礎 Ⅳ	1	演	Ⅳ		初習語学
イ タ リ ア 語 基 礎 Ⅰ	1	演	Ⅰ		初習語学
イ タ リ ア 語 基 礎 Ⅱ	1	演	Ⅱ		初習語学
イ タ リ ア 語 基 礎 Ⅲ	1	演	Ⅲ		初習語学
イ タ リ ア 語 基 礎 Ⅳ	1	演	Ⅳ		初習語学
ス ペ イ ン 語 基 礎 Ⅰ	1	演	Ⅰ		初習語学
ス ペ イ ン 語 基 礎 Ⅱ	1	演	Ⅱ		初習語学
ス ペ イ ン 語 基 礎 Ⅲ	1	演	Ⅲ		初習語学
ス ペ イ ン 語 基 礎 Ⅳ	1	演	Ⅳ		初習語学

(選択外国語)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	履 修 区 分
メ デ ィ ア 英 語 A	1	演	I		選択
メ デ ィ ア 英 語 B	1	演	II		選択
英 語 リ ー デ ィ ン グ A	1	演	I		選択
英 語 リ ー デ ィ ン グ B	1	演	II		選択
英語リスニング&スピーキングA	1	演	I		選択
英語リスニング&スピーキングB	1	演	II		選択
上級英語コミュニケーション I	1	演	III		選択
上級英語コミュニケーション II	1	演	IV		選択
上 級 英 語 ラ イ テ ィ ン グ I	1	演	III		選択
上 級 英 語 ラ イ テ ィ ン グ II	1	演	IV		選択
英 語 集 中 演 習 A	2	演	I (集中)		選択
英 語 集 中 演 習 B	2	演	I (集中)		選択
英 語 集 中 演 習 C	2	演	I (集中)		選択
ドイツ語コミュニケーションA I	1	演	III奇		選択
ドイツ語コミュニケーションA II	1	演	IV奇		選択
ドイツ語コミュニケーションB I	1	演	III偶		選択
ドイツ語コミュニケーションB II	1	演	IV偶		選択
ド イ ツ 語 表 現	1	演	IV		選択
ドイツ語プレゼンテーション	1	演	III		選択
フランス語コミュニケーションA I	1	演	III奇		選択
フランス語コミュニケーションA II	1	演	IV奇		選択
フランス語コミュニケーションB I	1	演	III偶		選択
フランス語コミュニケーションB II	1	演	IV偶		選択
フ ラ ン ス 語 表 現	1	演	IV		選択
フランス語プレゼンテーション	1	演	III		選択
中国語コミュニケーションA I	1	演	III奇		選択
中国語コミュニケーションA II	1	演	IV奇		選択
中国語コミュニケーションB I	1	演	III偶		選択
中国語コミュニケーションB II	1	演	IV偶		選択
中 国 語 表 現	1	演	IV		選択
中国語プレゼンテーション	1	演	III		選択
コリア語コミュニケーションA I	1	演	III奇		選択
コリア語コミュニケーションA II	1	演	IV奇		選択
コリア語コミュニケーションB I	1	演	III偶		選択
コリア語コミュニケーションB II	1	演	IV偶		選択
コ リ ア 語 表 現	1	演	IV		選択
コリア語プレゼンテーション	1	演	III		選択

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	履 修 区 分
多 言 語 多 文 化 A	2	講	Ⅲ		選択
多 言 語 多 文 化 B	2	講	Ⅲ		選択
多 言 語 多 文 化 C	2	講	Ⅳ		選択
多 言 語 多 文 化 D	2	講	Ⅳ		選択

19

教育創成科目

教育創成科目

教育創成科目は、教育の様々な課題について先端的な内容を学ぶ科目です。本科目は学校教育教員養成課程と教育支援課程を横断し、学校教育にフォーカスしたⅠ群と学校内外の教育課題に関わるⅡ群からなります。学校教育教員養成課程、教育支援課程のいずれの学生もⅠ群、Ⅱ群から科目を履修することにより（教育支援課程においては必修科目1単位に加えて、**Ⅰ群:3単位、Ⅱ群:3単位**の修得が必要です）、2つの課程を橋渡しします。

また、教育創成科目は本学が設定した、目標とする「人材像」と、それに紐づくこれからの教育者に必要な5つの「資質能力」に分類されています（以下の表を参照）。「自律型カリキュラムデザイン（P.20～21を参照）」により、各自の履修計画をたてる際には各科目が対応する資質能力を参考にしてください。なお、**資質能力別に修得が必要な単位数の定めはなく、①～⑤の資質能力の科目を満遍なく履修することも、特定の資質能力の科目を重点的に履修することも可能です。**

《本学が設定する2つの「人材像」と、5つの「資質能力」に対応する教育創成科目一覧》

目標		学校や社会をより良くするために教育者自身がどのような力を身に付けるべきか				
資質能力		①「探究力、創造力、他者・社会と協働できる力」を育成する力	②子供が置かれている多様な環境への対応力	③学び続けるために自己をマネジメントする力	④学校教育のより良い変革に資する基盤となる探究力、創造力	⑤学校内での協働・社会との連携をマネジメントする力
キーワード		・(子供の)探究力 ・(子供の)創造力 ・主体性 ・STEAM教育	・外国人児童生徒 ・障害者への支援 ・適応力 ・いじめ、不登校 ・教育の機会均等	・教師の働き方 ・自己マネジメント ・学び続ける教師 ・学校、学級経営	・(教師の)探究力 ・(教師の)創造力 ・ICT ・最先端技術 ・世界の教育	・地域連携 ・チーム学校 ・学校安全 ・教育支援
教育創成科目	必修科目				★教育のためのデータサイエンス	
	選択科目（点線で区切られた上段がⅠ群、下段がⅡ群）	・学校教育におけるSDGs ・教育評価の理論と実践 ・環境と教育実践 ・エコスクール論 ・地域の環境観測とその実践 ・子どもの遊びと生活 ・板書指導と手書き文字 ・学校におけるプログラミング教育 ・遊びと発育・発達 ・学校図書館で深める主体的な学びのデザイン ・Lesson Study in Japan ・国際バカロレア教育と探究学習の視点 ・自然体験学習論	・いじめ・不登校と変化する社会 ・現代の学校と外国人児童・生徒 ・外国人児童生徒への日本語教育 ・文字文化と書写指導 ・不平等と教育 ・特別ニーズと教育 ・インクルーシブ教育とユニバーサルデザイン ・こどもの学び困難と教育支援 ・子ども社会学 ・国際理解教育論 ・文化間移動と子どもの学び ・Education for Multicultural Children	・未来の学校をみんなで創る ・現代の学校をめぐる諸課題と教育行政A、B ・教師の省察的実践のための教育思想 ・現代学校論 ・教室集団の人間関係 ・学級経営論 ・学校経営のための教育経営・教育政策 ・Education in Japan (A)、(B) ・教員・教育支援者のメンタルケアの基礎理論	・教育の情報化基礎 ・Edtechと最先端技術の活用 ・教育のための情報セキュリティ ・教育のための情報倫理・法 ・教育のための紙面編集 ・教育のための映像編集 ・教育開発と教育協力 ・世界の教育多様性 ・外国の教育(A)、(B)	・学校保健・衛生管理とマネジメントサイクル ・教職基礎としての子供の安全 ・学校教育と地域連携 ・学校教育とスクールソーシャルワーク ・学社連携と児童・生徒 ・現代の教育課題と文化遺産 ・教育支援とカウンセリング ・地域スポーツと部活動 ・子供の学びを支えるエコシステム

19 教育創成科目(EC)

①「備考」欄に記載された必修1単位を必ず履修し、「区分」欄の「Ⅰ群」から3単位以上、「Ⅱ群」から3単位以上、合計7単位以上履修すること。(必修、Ⅰ群、Ⅱ群以外の科目を履修した場合、自由選択の単位となるため注意。)

②外国人留学生短期プログラム科目(「備考」欄に“短プロ”と記載)は、英語で授業が行われる。

(教育創成科目)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	区 分	備 考
教 育 の た め の デ ー タ サ イ エ ン ス	1	講	Ⅲ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自		必修
学 校 教 育 に お け る S D G s	1	講	Ⅳ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
教 育 評 価 の 理 論 と 実 践	1	講	Ⅴ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
環 境 と 教 育 実 践	1	講演	Ⅲ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
エ コ ス ク ー ル 論	1	講	Ⅳ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
地 域 の 環 境 観 測 と そ の 実 践	1	講	Ⅲ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
子 ど も の 遊 び と 生 活	1	講	Ⅱ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
板 書 指 導 と 手 書 き 文 字	1	演	Ⅲ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
学 校 に お け る プ ロ グ ラ ミ ン グ 教 育	1	講	Ⅲ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
遊 び と 発 育 ・ 発 達	1	講	Ⅱ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
学校図書館で深める主体的な学びのデザイン	1	講	Ⅱ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
Lesson Study in Japan	2	講演	Ⅵ	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	短プロ
いじめ・不登校と変化する社会	1	講	Ⅳ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
現代の学校と外国人児童・生徒	1	講	Ⅱ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
外国人児童生徒への日本語教育	1	講演	Ⅱ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
文 字 文 化 と 書 写 指 導	1	演	Ⅲ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
不 平 等 と 教 育	1	講演	Ⅲ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
特 別 ニ ー ズ と 教 育	1	講	Ⅱ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
インクルーシブ教育とユニバーサルデザイン	1	講	Ⅲ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
未 来 の 学 校 を み ん な で 創 る	1	講	Ⅲ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
現代の学校をめぐる諸課題と教育行政A	1	講	Ⅱ前	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	
現代の学校をめぐる諸課題と教育行政B	1	講	Ⅱ後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	Ⅰ群	

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	区 分	備 考
教師の省察的実践のための教育思想	1	講	Ⅲ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	I 群	
現 代 学 校 論	1	講	Ⅲ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	I 群	
教 室 集 団 の 人 間 関 係	1	講	Ⅳ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	I 群	
学 級 経 営 論	1	講	Ⅲ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	I 群	
学校経営のための教育経営・教育政策	1	講	Ⅳ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	I 群	
Education in Japan (A)	2	講	V	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	I 群	短プロ
Education in Japan (B)	2	講	IV	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	I 群	短プロ
教 育 の 情 報 化 基 礎	1	講	Ⅱ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	I 群	
学校保健・衛生管理とマネジメントサイクル	1	講	Ⅳ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	I 群	
教 職 基 礎 と し て の 子 供 の 安 全	1	講	Ⅱ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	I 群	
学 校 教 育 と 地 域 連 携	1	講	Ⅳ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自	I 群	
国際バカロレア教育と探究学習の視点	1	講演	Ⅳ前後		Ⅱ群	
自 然 体 験 学 習 論	1	講	Ⅳ前後		Ⅱ群	
こ だ も の 学 び 困 難 と 教 育 支 援	1	講	Ⅱ前後		Ⅱ群	
子 ど も 社 会 学	1	講	Ⅲ前後		Ⅱ群	
国 際 理 解 教 育 論	1	講	Ⅳ前後		Ⅱ群	
文 化 間 移 動 と 子 ど も の 学 び	1	講	Ⅲ前後		Ⅱ群	
Education for Multicultural Children	2	講	Ⅲ		Ⅱ群	短プロ
教員・教育支援者のメンタルケアの基礎理論	1	講	V前後		Ⅱ群	
Edtech と 最 先 端 技 術 の 活 用	1	講	Ⅳ前後		Ⅱ群	
教育のための情報セキュリティ	1	講	Ⅳ前後【偶】		Ⅱ群	
教育のための情報倫理・法	1	講	Ⅳ前後【奇】		Ⅱ群	
教育のための紙面編集	1	講実	Ⅲ前後【偶】		Ⅱ群	
教育のための映像編集	1	講実	Ⅲ前後【奇】		Ⅱ群	
教育開発と教育協力	1	講	Ⅲ前後		Ⅱ群	
世 界 の 教 育 と 多 様 性	1	講	Ⅱ前後		Ⅱ群	
外 国 の 教 育 (A)	1	講	Ⅳ前後		Ⅱ群	
外 国 の 教 育 (B)	1	講	Ⅲ前後		Ⅱ群	
学校教育とスクールソーシャルワーク	1	講	Ⅱ前後		Ⅱ群	

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	諸 資 格	区 分	備 考
学 社 連 携 と 児 童 ・ 生 徒	1	講	Ⅲ前後			Ⅱ群	
現 代 の 教 育 課 題 と 文 化 遺 産	1	講	Ⅱ前後			Ⅱ群	
教 育 支 援 と カ ウ ン セ リ ン グ	1	講	Ⅳ前後			Ⅱ群	
地 域 ス ポ ー ツ と 部 活 動	1	講	Ⅱ前後			Ⅱ群	
子どもの学びを支えるエコシステム	1	講	Ⅲ前後			Ⅱ群	
社会に開かれた探究と創造の学びのデザイン	1	講	V前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自			※1
学びを支えるファシリテーションの技法	1	講演	V前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自			※1
チ ー ム 学 校 と 多 職 種 協 働	1	講	Ⅵ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自			※1
教師のレジリエンスと自己管理能力の育成	1	講	Ⅵ前後	(幼, 小, 中, 高, 養) 大学独自			※1
博 物 館 と 展 示 の 活 用	2	講演	Ⅳ		学芸員		※1
学 校 経 営 と 学 校 図 書 館	2	講	V		司書教諭 学校司書		※1
学 校 図 書 館 メ デ ィ ア の 構 成	2	講	V		司書教諭		※1
読 書 と 豊 か な 人 間 性	2	講	V		司書教諭 学校司書		※1
学 習 指 導 と 学 校 図 書 館	2	講	Ⅵ		司書教諭 学校司書		※1
情 報 メ デ ィ ア の 活 用	2	講	Ⅵ		司書教諭		※1
自 己 創 造 の た め の 教 育 体 験 活 動 A	1	実	I～Ⅲ				※1 ※2
自 己 創 造 の た め の 教 育 体 験 活 動 B	1	実	I～Ⅲ				※1 ※2
自 己 創 造 の た め の 教 育 体 験 活 動 C	1	実	I～Ⅲ				※1 ※2
総 合 イ ン タ ー ン シ ッ プ A	2	実	V・Ⅵ				※1
総 合 イ ン タ ー ン シ ッ プ B	2	実	V・Ⅵ				※1

(※1)必修, I 群, II 群のいずれにも属さない科目を履修した場合, 自由選択の単位となるため注意。

(※2)オリエンテーション→教育体験活動→報告書の作成・提出, 交流会参加→単位認定 といった流れで実施(詳細はオリエンテーションにて確認してください。オリエンテーションの日程については, 学芸ポータル等でお知らせします。)実習時間として30時間以上が必要。

20 専攻科目

20 専攻科目

教育支援課程〔E類〕教育支援専攻

課程共通科目（SS）

下記の授業科目から、◎印の2科目4単位を含めて6単位以上を修得する。（E課程共通SS）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	諸 資 格	備 考 (対 象)
教 育 支 援 概 論 A	2	講	I			◎
教 育 支 援 概 論 B	2	講	II			◎
教 育 支 援 協 働 演 習 A	1	演	III前			
教 育 支 援 協 働 演 習 B	1	演	III前			
教 育 支 援 協 働 演 習 C	1	演	III後			
教 育 支 援 協 働 演 習 D	1	演	III後			
教 育 支 援 協 働 演 習 E	1	演	IV前			
教 育 支 援 協 働 演 習 F	1	演	IV前			
教 育 支 援 協 働 演 習 G	1	演	IV後			
教 育 支 援 協 働 演 習 H	1	演	IV後			
教 育 支 援 協 働 演 習 I	1	演	IV後			

生涯学習・文化遺産教育コース

コースに関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、20単位を必ず修得する。

(E生涯学習S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
生涯学習・文化遺産教育コース 入門セミナー	2	講	I			
生涯学習とキャリア形成	2	演	II		社会教育主事	
生涯学習概説 I	2	講	I		司書 社会教育主事 学芸員	
生涯学習社会と博物館	2	講	III		学芸員	
図書館情報学概説 I	2	講	III		司書	
現代社会と生涯学習	2	講	I		社会教育主事	
文化財科学概説	2	講	I			
学校図書館サービステ論	2	講	IV		司書 学校司書	
文化遺産教育と考古学	2	講	I			
文化遺産と保存科学	2	講	II			

選択科目A(SA)

下記の授業科目から、○印の科目1科目2単位以上を含めて、42単位以上を修得する。

(E生涯学習SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
文化遺産教育フィールド演習 A	2	演	VI			○
文化遺産教育フィールド演習 B	2	演	VI			○
文化遺産教育フィールド演習 C	2	演	VI			○
生涯学習支援論 II	2	演	IV		社会教育主事	○
社会教育実習	1	実	III (集中)		社会教育主事	○
博物館実習 I	2	実	V		学芸員	○
教育支援実践演習	2	演	VII (集中)			○
図書館情報学概説 II	2	講	IV		司書	
生涯学習支援論 I	2	講	III		社会教育主事	
社会教育経営論 I	2	講	V		社会教育主事	
社会教育経営論 II	2	講	VI		社会教育主事	
社会教育演習 I	2	演	V		社会教育主事	
社会教育演習 II	2	演	VI		社会教育主事	
生涯学習概説 II	2	講	II		社会教育主事 学芸員	
コミュニティ形成と社会教育	2	講	III		社会教育主事	

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	諸 資 格	備 考 (対 象)
社 会 教 育 実 践 論	2	講	Ⅳ		社会教育主事	
同 和 問 題 と 社 会 教 育	2	講	Ⅱ		社会教育主事	
メ デ ィ ア 資 源 論	2	講	Ⅲ		司書 学校司書	
地 域 図 書 館 経 営 論	2	講	Ⅳ		司書	
図 書 館 建 築 論	2	講	Ⅲ		司書	
資 料 ・ 情 報 組 織 法 Ⅰ	2	講	Ⅲ		司書 学校司書	
図 書 館 特 論	2	講	Ⅵ偶		司書	
地 域 図 書 館 サ ー ビ ス 論	2	講	Ⅳ		司書	
資 料 ・ 情 報 組 織 法 Ⅱ	2	講	Ⅳ		司書 学校司書	
子 ど も 図 書 館 サ ー ビ ス 論	2	講	Ⅲ		司書	
情 報 検 索 技 術 論	2	講	Ⅴ奇		司書 学校司書	
情 報 サ ー ビ ス 論	2	講	Ⅴ		司書 学校司書	
図 書 館 情 報 学 演 習 Ⅰ	2	演	Ⅴ		司書	
情 報 管 理 技 術 論	2	講	Ⅴ偶		司書 学校司書	
学 術 情 報 メ デ ィ ア 特 論	2	講	Ⅵ奇		司書	
図 書 館 情 報 学 演 習 Ⅱ	2	演	Ⅵ			
博 物 館 学 基 礎 論	2	講	Ⅳ		学芸員	
博 物 館 資 料 論	2	講	Ⅲ		学芸員	
博 物 館 経 営 論	2	講	Ⅲ		学芸員	
博 物 館 情 報 ・ メ デ ィ ア 論	2	講	Ⅴ		学芸員	
博 物 館 資 料 保 存 論	2	講	Ⅳ		学芸員	
博 物 館 実 習 Ⅱ	2	実	Ⅵ		学芸員	
博 物 館 実 習 Ⅲ	②	実	ⅦⅧ		学芸員	
博 物 館 学 演 習 Ⅰ	2	演	Ⅴ			
博 物 館 学 演 習 Ⅱ	2	演	Ⅵ			
博 物 館 展 示 論	2	講	Ⅳ		学芸員	
情 報 検 索 演 習	2	演	Ⅵ		司書 学校司書	
性 と 人 権	2	講	Ⅳ		社会教育主事	

(E生涯学習SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
資 料 ・ 情 報 サ ー ビ ス 演 習	2	演	Ⅵ		司書 学校司書	
地 域 教 育 基 礎 論	2	講	Ⅲ		社会教育主事	
文 化 遺 産 特 殊 研 究 A	2	講	Ⅲ奇			
文 化 遺 産 特 殊 研 究 B	2	講	Ⅲ偶			
文 化 財 科 学 演 習	2	演	V			
文 化 財 科 学 実 地 研 究	2	演	Ⅲ			
文 化 財 と 関 連 諸 学 A	2	講	Ⅳ奇			
文 化 財 と 関 連 諸 学 B	2	講	Ⅳ偶			
文 化 財 保 存 ・ 修 復 研 究 A	2	演	Ⅳ奇			
文 化 財 保 存 ・ 修 復 研 究 B	2	演	Ⅳ偶			
文 化 財 分 析 化 学	2	講	Ⅳ			
文 化 財 環 境 化 学	2	講	Ⅲ			
文 化 財 分 析 化 学 実 験	2	実	Ⅳ奇			
文 化 財 環 境 化 学 実 験	2	実	Ⅳ偶			
考 古 学 研 究 法	2	講	Ⅱ			
考 古 学 実 地 研 究 I	2	演	Ⅲ			
考 古 学 実 地 研 究 II	2	演	Ⅳ			
考 古 学 演 習	2	演	V			
地 域 考 古 学 A	2	講	Ⅲ奇			
地 域 考 古 学 B	2	講	Ⅲ偶			
日 本 考 古 学 I	2	講	Ⅳ奇			
日 本 考 古 学 II	2	講	Ⅵ偶			
保 存 科 学 実 地 研 究	2	演	Ⅳ			
保 存 科 学 演 習	2	演	V			
表 装 実 習	2	実	Ⅵ(集中)			
日 本 東 洋 美 術 史 概 説	2	講	Ⅲ			
日 本 東 洋 美 術 史 演 習	2	演	V			

課程共通選択科目(SC)

※p.67に記載のSC科目一覧の中から、4単位以上修得する。

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(E生涯学習SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	コース	備考
卒 業 研 究	④	ⅦⅧ	生涯学習・文化遺産教育 コース	

カウンセリングコース

コースに関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、22単位を必ず修得する。

(EカウンセリングS)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
カウンセリングコース入門セミナー	2	講	I		
臨 床 心 理 学 概 論	2	講	I		
カウンセリングとキャリア形成	2	講	III		
心 理 学 研 究 法 I	2	講	III		
教 育 ・ 心 理 デ ー タ 解 析 法	2	講	III		
心 理 学 研 究 法 II	2	講	IV		
臨 床 心 理 学 基 礎 演 習	2	演	V		
スクールカウンセリング概論	2	講	II		
心 理 療 法 実 践 演 習	2	演	V		
人 間 理 解 の 心 理 学	2	講	II		
臨 床 心 理 学 応 用 演 習	2	演	VI		

選択科目A(SA)

選択科目Aから○印の科目2単位以上を修得し、選択科目Bと併せて40単位以上を修得する。

(EカウンセリングSA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
心 理 実 習 I	1	実	VII		○
心 理 実 習 II	1	実	VIII		○
教 育 支 援 実 践 演 習	2	演	VII (集中)		○
関 係 行 政 論	2	講	VII		
面 接 技 法 演 習	2	演	III		
心 理 学 的 支 援 法	2	演	IV		
心 理 的 ア セ ス メ ン ト A	2	演	V		
心 理 的 ア セ ス メ ン ト B	2	演	VI		
心 理 演 習	2	演	VI		
心 理 学 実 験	2	演	V		
精 神 疾 患 と そ の 治 療	2	講	VI		
障 害 者 ・ 障 害 児 心 理 学	2	講	IV		
健 康 ・ 医 療 心 理 学	2	講	V		
司 法 ・ 犯 罪 心 理 学	2	講	V		
福 祉 心 理 学	2	講	IV		

(EカウンセリングSA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
人 体 の 構 造 と 機 能 及 び 疾 病	2	講	V		
公 認 心 理 師 の 職 責	2	講	VI		
産 業 ・ 組 織 心 理 学	2	講	IV		
学 習 ・ 言 語 心 理 学	2	講	VI		
感 情 ・ 人 格 心 理 学	2	講	V		
神 経 ・ 生 理 心 理 学	2	講	VI		

選択科目B(SB)

(EカウンセリングSB)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
心 理 学 概 論	2	講	I		A類学校心理SA
発 達 心 理 学	2	講	I		A類学校心理SA
教 育 ・ 学 校 心 理 学	2	講	II		A類学校心理SA
心 理 学 統 計 法 I	1	演	I		A類学校心理SA
心 理 学 統 計 法 II	1	演	II		A類学校心理SA
社 会 ・ 集 団 ・ 家 族 心 理 学	2	講	III		A類学校心理SA
知 覚 ・ 認 知 心 理 学	2	講	IV		A類学校心理SA

課程共通選択科目(SC)

※p.67に記載のSC科目一覧の中から、4単位以上修得する。

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(EカウンセリングSZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	コース	備考
卒 業 研 究	④	VIIⅧ	カウンセリングコース	

ソーシャルワークコース

コースに関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、12単位を必ず修得する。

(EソーシャルワークS)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
ソ ー シ ャ ル ワ ー ク コ ー ス 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	I			
社 会 福 祉 演 習 I	2	演	V			
社 会 福 祉 演 習 II	2	演	VI			
社 会 福 祉 原 論 I	2	講	I		社会福祉士	
社 会 福 祉 原 論 II	2	講	II		社会福祉士	
ソーシャルワークとキャリア形成	2	演	III			

選択科目A(SA)

下記の授業科目から、○印の科目1科目2単位以上を含めて50単位以上修得する。

(EソーシャルワークSA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 実 習	⑥	実	V VI		社会福祉士	○
スクールソーシャルワーク実習	②	実	VII VIII		スクール(学校)ソーシャルワーカー	○
教 育 支 援 実 践 演 習	2	演	VII (集中)			○
社 会 理 論 と 社 会 シ ス テ ム	2	講	II		社会福祉士	
スクールソーシャルワーク論	2	講	VI		スクール(学校)ソーシャルワーカー	
スクールソーシャルワーク 演 習 ・ 実 習 指 導	2	演	VII		スクール(学校)ソーシャルワーカー	
児 童 福 祉 論	2	講	III		社会福祉士	
社 会 保 障 論 I	2	講	III		社会福祉士	
社 会 保 障 論 II	2	講	IV		社会福祉士	
高 齢 者 福 祉 論	2	講	IV		社会福祉士	
障 害 者 福 祉 論	2	講	IV		社会福祉士	
社 会 福 祉 調 査	2	講	VI		社会福祉士	

(EソーシャルワークSA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 論 I	2	講	I		社会福祉士	
ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 論 II	2	講	II		社会福祉士	
ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 論 III	2	講	III		社会福祉士	
ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 論 IV	2	講	IV		社会福祉士	
ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 論 V	2	講	V		社会福祉士	
ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 論 VI	2	講	VI		社会福祉士	
地 域 福 祉 論 I	2	講	IV		社会福祉士	
地 域 福 祉 論 II	2	講	V		社会福祉士	
社 会 福 祉 経 営	2	講	V		社会福祉士	
公 的 扶 助 論	2	講	III (集中)		社会福祉士	
医 学 概 論	2	講	II		社会福祉士	
医 療 福 祉 論	2	講	V		社会福祉士	
権 利 擁 護 と 成 年 後 見	2	講	V		社会福祉士	
司 法 福 祉 論	2	講	V		社会福祉士	
ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 演 習 I	2	演	IV		社会福祉士	
ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 演 習 II	2	演	V		社会福祉士	
ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 演 習 III	2	演	V		社会福祉士	
ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 演 習 IV	2	演	VI		社会福祉士	
ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 演 習 V	2	演	VI		社会福祉士	
ソーシャルワーク実習指導 I	2	演	III		社会福祉士	
ソーシャルワーク実習指導 II	2	演	V		社会福祉士	
ソーシャルワーク実習指導 III	2	演	VI		社会福祉士	
心 理 学 と 心 理 的 支 援	2	講	I		社会福祉士	
精 神 保 健 学 概 論	2	講	VI		スクール(学校)ソーシャル ワーカー	

課程共通選択科目(SC)

※p.67に記載のSC科目一覧の中から、4単位以上修得する。

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(EソーシャルワークSZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	コース	備考
卒 業 研 究	④	VIIⅧ	ソーシャルワークコース	

多文化共生教育コース

コースに関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、14単位を必ず修得する。

(E多文化共生S)

授 業 科 目	単 位 数	講 実 演	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
多文化共生教育コース入門セミナー	2	講	I		
多文化共生教育とキャリア形成	2	講	I		
多文化共生とダイバーシティ	2	講	I		
グローバル化する世界と社会	2	講	III		
地域社会とサステナビリティ	2	講	IV		
英 語 応 用 I	1	演	I		
英 語 応 用 II	1	演	II		
英 語 応 用 III	1	演	III		
英 語 応 用 IV	1	演	IV		

選択科目A(SA)

選択科目Aから、①～④のいずれかの組み合わせで6単位以上修得し、○印の科目から1科目2単位以上、

□印の科目から1科目2単位以上を含め、選択科目Bと併せて48単位以上を修得する。

(E多文化共生SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 実 演	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
ド イ ツ 語 入 門 I	1	演	I		①
ド イ ツ 語 入 門 II	1	演	II		①
ド イ ツ 語 応 用 I	1	演	I		①
ド イ ツ 語 応 用 II	1	演	II		①
ド イ ツ 語 実 践 I	1	演	V		①
ド イ ツ 語 実 践 II	1	演	VI		①
フ ラ ン ス 語 入 門 I	1	演	I		②
フ ラ ン ス 語 入 門 II	1	演	II		②
フ ラ ン ス 語 応 用 I	1	演	I		②
フ ラ ン ス 語 応 用 II	1	演	II		②
フ ラ ン ス 語 実 践 I	1	演	V		②
フ ラ ン ス 語 実 践 II	1	演	VI		②
中 国 語 入 門 I	1	演	I		③
中 国 語 入 門 II	1	演	II		③
中 国 語 応 用 I	1	演	I		③
中 国 語 応 用 II	1	演	II		③
中 国 語 実 践 I	1	演	V		③
中 国 語 実 践 II	1	演	VI		③

授 業 科 目	単 位 数	講 実 演	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
コ リ ア 語 入 門 I	1	演	I		④
コ リ ア 語 入 門 II	1	演	II		④
コ リ ア 語 応 用 I	1	演	I		④
コ リ ア 語 応 用 II	1	演	II		④
コ リ ア 語 実 践 I	1	演	V		④
コ リ ア 語 実 践 II	1	演	VI		④
多文化共生論基礎演習A	2	演	III奇		○
多文化共生論基礎演習B	2	演	III偶		○
グローバル社会論基礎演習A	2	演	IV奇		○
グローバル社会論基礎演習B	2	演	IV偶		○
多文化共生論演習A	2	演	V奇		□
多文化共生論演習B	2	演	V偶		□
グローバル社会論演習A	2	演	VI奇		□
グローバル社会論演習B	2	演	VI偶		□
教育支援実践演習	2	演	VII (集中)		□
グローバル・ヒストリーA	2	講	III奇		
グローバル・ヒストリーB	2	講	III偶		
現代文化人類学A	2	講	III奇		
現代文化人類学B	2	講	III偶		
言語と多文化A	2	講	IV奇		
言語と多文化B	2	講	IV偶		
異文化間協働へのアプローチA	2	演	III奇		
異文化間協働へのアプローチB	2	演	III偶		
多様な史資料へのアプローチA	2	演	IV奇		
多様な史資料へのアプローチB	2	演	IV偶		
フィールドワーク論演習A	2	演	V奇		
フィールドワーク論演習B	2	演	V偶		
社会調査方法論演習A	2	演	VI奇		
社会調査方法論演習B	2	演	VI偶		
比較文化論演習A	2	演	VI奇		
比較文化論演習B	2	演	VI偶		
フ ィ ー ル ド 研 究 A	2	演	VIII		
フ ィ ー ル ド 研 究 B	2	演	VIII		

選択科目B(SB)

(E多文化共生SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 実 演	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
日 本 語 教 育 概 論	2	講	I	大学独自(幼,小,中・高 (国))	A・B類国語SA
子どもの日本語教育A 子どもの社会文 化 的 背 景 と バ イ リ ン ガ リ ズ ム	2	講演	II	大学独自(幼,小,中・高 (国))	A・B類国語SA
日 本 語 教 育 の 歴 史 と 言 語 政 策	2	講	V奇・VII奇	大学独自(幼,小,中・高 (国))	A・B類国語SA
言 語 学 概 論	2	講演	IV偶・VI偶	大学独自(幼,小,中・高 (国))	A・B類国語SA
同 和 問 題 と 社 会 教 育	2	講	II		E類生涯学習SA
演 劇 と 社 会	2	講	II		E類表現教育S

課程共通選択科目(SC)

※p.67に記載のSC科目一覧の中から、4単位以上修得する。

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(E多文化共生SZ)

授 業 科 目	単 位 数	講 実 演	標 準 開 設 学 期	コ ー ス	備 考
卒 業 研 究	④	演	VII VIII	多文化共生教育コース	

情報教育コース

コースに関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、22単位を必ず修得する。

(E情報教育S)

授 業 科 目	単 位 数	講 実 演	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
情 報 教 育 コース 入 門 セミナー	2	講	I		
コ ン ピ ュ ー タ シ ス テ ム 概 論	2	講	I	【(高)情報】コンピュータ・情報処理 【(中・高)数学】コンピュータ	
プ ロ グ ラ ミ ン グ I	2	講	I	【(高)情報】コンピュータ・情報処理 【(中・高)数学】コンピュータ	
プ ロ グ ラ ミ ン グ 演 習 I	2	演	I	【(高)情報】コンピュータ・情報処理 【(中・高)数学】コンピュータ	
情 報 数 学	2	講	II		
プ ロ グ ラ ミ ン グ II	2	講	II	【(高)情報】コンピュータ・情報処理 【(中・高)数学】コンピュータ	
プ ロ グ ラ ミ ン グ 演 習 II	2	演	II	【(高)情報】コンピュータ・情報処理 【(中・高)数学】コンピュータ	
教 育 情 報 化 論 A	2	講	III		
教 育 情 報 化 論 B	2	講	III		
教 育 情 報 化 論 C	2	講	IV		
教育情報化支援とキャリア形成	2	講	IV		

選択科目A(SA)

選択科目A及び選択科目Bの授業科目から、○印の科目1科目2単位以上を含めて、40単位以上修得する。

(E情報教育SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 実 演	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
教育情報化支援フィールドワーク実習	2	演	VII		○
教 育 支 援 実 践 演 習	2	演	VII (集中)		○
ソフトウェアシステムと教育支援	2	講	II		
教 育 情 報 化 支 援 教 材 論 A	2	講	III		
教 育 情 報 化 支 援 教 材 論 B	2	講	IV		
教 育 情 報 化 支 援 論	2	講	VI		

(E情報教育SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 実 演	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
デ ー タ ベ ー ス 論	2	講	Ⅲ		
応 用 プ ロ グ ラ ミ ン グ	2	講	Ⅲ		
情 報 デ ザ イ ン 論	2	講	Ⅲ		
数 値 計 算	2	講	Ⅳ		
情 報 メ デ ィ ア 論	2	講	Ⅳ		
オ ペ レ ー テ ィ ン グ シ ス テ ム 論	2	講	Ⅳ		
H C I	2	講	Ⅳ	【(高)情報】マルチメディア表現・ マルチメディア技術	
情 報 シ ス テ ム	2	講	Ⅴ	【(高)情報】情報システム	
教 育 情 報 化 シ ス テ ム 論	2	講	Ⅴ		
教 育 工 学	2	講	Ⅴ		
デ ー タ 分 析 と コ ン ピ ュ ー タ 論	2	講	Ⅴ		
知 識 処 理 と 人 工 知 能 論	2	講	Ⅴ		
シ ス テ ム プ ロ グ ラ ミ ン グ	2	講	Ⅵ	【(高)情報】 情報通信ネットワーク	
情 報 科 学 教 育 演 習 A	2	演	Ⅴ		
情 報 科 学 教 育 演 習 B	2	演	Ⅵ		

選択科目B(SB)

(E情報教育SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 実 演	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
オ ー ト マ ト ン と 形 式 言 語	2	講	Ⅱ	【(高)情報】 コンピュータ・情報処理	B類情報SA
計 算 機 ハ ー ド ウ ェ ア	2	講	Ⅲ	【(高)情報】 コンピュータ・情報処理	B類情報SA
マ ル チ メ デ ィ ア 情 報 解 析	2	講	Ⅲ	【(高)情報】マルチメディア表現・ マルチメディア技術	B類情報S
プ ロ グ ラ ム 言 語 論 と コ ン パ イ ラ	2	講	Ⅳ	【(高)情報】 コンピュータ・情報処理	B類情報SA
計 測 と 制 御	2	講	Ⅵ	【(高)情報】 コンピュータ・情報処理	B類情報SA
ネ ッ ト ワ ー ク シ ス テ ム	2	講	Ⅵ	【(高)情報】 情報通信ネットワーク	B類情報S
異文化間協働へのアプローチA	2	演	Ⅲ奇		E類多文化共生教育SA
異文化間協働へのアプローチB	2	演	Ⅲ偶		E類多文化共生教育SA

課程共通選択科目 (SC)

※p.67に記載のSC科目一覧の中から、4単位以上修得する。

卒業研究 (SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(E情報教育SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標 準 開 設 学 期	コ ー ス	備 考
卒 業 研 究	④	VIIⅧ	情報教育コース	

表現教育コース

コースに関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、12単位を必ず修得する。

(E表現教育S)

授 業 科 目	単 位 数	講 実 演	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
表 現 教 育 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	I		
表 現 教 育 と キ ャ リ ア 形 成	2	講	III		
演 劇 と 社 会	2	講	II		
演 劇 と 教 育	2	講	II		
ビジュアルデザイン表現概説	2	講	II		
音 楽 表 現 概 説	2	講	II		

選択科目A(SA)

選択科目Aから○印の科目1科目2単位以上を修得し、選択科目Bと併せて50単位以上を修得する。

(E表現教育SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 実 演	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
舞 台 表 現 指 導 演 習 A	2	演	V 偶		
舞 台 表 現 指 導 演 習 B	2	演	V 奇		
音 楽 表 現 研 究 A	2	演	III 偶		
音 楽 表 現 研 究 B	2	演	III 奇		
芸 術 表 現 実 践 論 A	2	講	III 偶 (集中)		
芸 術 表 現 実 践 論 B	2	講	III 奇 (集中)		
芸 術 家 と 教 育 支 援	2	講	IV		
ア ー ト ・ セ ラ ピ ー 論	2	講	V		
ア ー ト ・ マ ネ ジ メ ン ト 論	2	講	III		
イ ン プ ロ 研 究 A	2	演	IV 偶		
イ ン プ ロ 研 究 B	2	演	IV 奇		
批 評 理 論 研 究	2	演	III 奇		
戯 曲 翻 訳 研 究	2	演	III 偶		
舞 台 表 現 分 析 演 習 A	2	演	VI 偶		
舞 台 表 現 分 析 演 習 B	2	演	VI 奇		
演 劇 表 現 分 析 演 習 A	2	演	VI 偶		
演 劇 表 現 分 析 演 習 B	2	演	VI 奇		

(E表現教育SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 実 演	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
ビジュアルデザイン表現基礎A	2	演	IV偶		
ビジュアルデザイン表現基礎B	2	演	IV奇		
ビジュアルデザイン実践演習A	2	演	V偶		
ビジュアルデザイン実践演習B	2	演	V奇		
表現教育技術演習	2	演	VI		
教育支援実践演習	2	演	VII (集中)		○
表現教育卒研演習Ⅰ	2	演	VII		○
表現教育卒研演習Ⅱ	2	演	VIII		○

選択科目B(SB)

(E表現教育SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 実 演	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
音 楽 学 概 論 A	2	講	I	(小)音楽 【(中・高)音楽】音楽理論・音楽史		A・B類音楽S
社 会 理 論 と 社 会 シ ス テ ム	2	講	II		社会福祉士	E類ソーシャル ワーク SA
生 涯 学 習 概 説 Ⅰ	2	講	I		司書 社会教育主事 学芸員	E類生涯学習 S
生 涯 学 習 概 説 Ⅱ	2	講	II		社会教育主事 学芸員	E類生涯学習 SA
日 本 古 典 文 学 概 論	2	講	II	(小)国語 【(中・高)国語】国文学(国文学史 を含む。)		A・B類国語・ B類書道S
日 本 近 代 文 学 概 論	2	講	I	(小)国語 【(中・高)国語】国文学(国文学史 を含む。)		A・B類国語・ B類書道S
多文化共生とダイバーシティ	2	講	I			E類多文化共 生教育S
言 語 と 多 文 化 A	2	講	IV奇			E類多文化共 生教育SA
西 洋 美 術 史 概 論	2	講	II	(小)図画工作 【(中・高)美術】 美術理論・美術史		A類美術SA・ B類美術S
言 語 と 多 文 化 B	2	講	IV偶			E類多文化共 生教育SA

課程共通選択科目(SC)

※p.67に記載のSC科目一覧の中から、4単位以上修得する。

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(E表現教育SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	コース	備考
卒 業 研 究	④	VIIⅧ	表現教育コース	

生涯スポーツコース

コースに関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、10単位を必ず修得する。

(E生涯スポーツS)

授 業 科 目	単 位 数	講 実 演	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
生涯スポーツコース入門セミナー	2	講	I			
生涯スポーツとキャリア形成	2	講	II		スポーツ指導者資格	
スポーツ支援ネットワーク形成実践演習	2	演	V			
ス ポ ー ツ 哲 学	2	講	III			
運 動 処 方 論	2	講	IV		スポーツ指導者資格	

選択科目A(SA)

選択科目A及び選択科目Bの授業科目から●印の科目2科目4単位を全て修得し、

○印の科目から1科目2単位以上修得したうえで、合計52単位以上を修得する。

(E生涯スポーツSA)

授 業 科 目	単 位 数	講 実 演	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
生涯スポーツ研究法A	2	演	V			●
生涯スポーツ研究法B	2	演	VI			●
教育支援実践演習	2	演	VII (集中)			○
運動学習と指導の心理学	2	講	IV		スポーツ指導者資格	
ス ポ ー ツ 史	2	講	III			
ス ポ ー ツ 社 会 学	2	講	VI			
ス ポ ー ツ 政 策 学	2	講	VI			
スポーツアントレプレナーシップ論	2	講	III			
ス ポ ー ツ N P O 論	2	講	V			
ス ポ ー ツ 人 類 学	2	講	IV			
身 体 知 と 文 化	2	講	I			
ス ポ ー ツ 産 業 論	2	講	III			
運 動 疫 学	2	講	V			
発 育 発 達 学	2	講	I		スポーツ指導者資格	
健 康 ス ポ ー ツ 医 学	2	講演	V		スポーツ指導者資格	
健 康 と ス ポ ー ツ の 栄 養 学	2	講	IV		スポーツ指導者資格	
ス ポ ー ツ リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン	2	講演	II		スポーツ指導者資格	
生涯スポーツ基礎実習	1	実	III		スポーツ指導者資格	○
ス ポ ー ツ 医 学 ・ 救 急 処 置	2	講演	III		スポーツ指導者資格	
健康・スポーツ科学データアナリティクス	2	講演	IV			

(E生涯スポーツSA)

授 業 科 目	単 位 数	講 実 演	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
ス ポ ー ツ コ ー チ ン グ 論 A	2	講演	Ⅲ		スポーツ指導者資格	
ス ポ ー ツ コ ー チ ン グ 論 B	2	講演	Ⅳ		スポーツ指導者資格	
ス ポ ー ツ コ ー チ ン グ 論 C	2	講演	Ⅳ		スポーツ指導者資格	
コ ー チ ン グ の 心 理 学	2	講	Ⅴ		スポーツ指導者資格	
体 育 ・ ス ポ ー ツ 測 定 評 価	2	講演	Ⅳ		スポーツ指導者資格	
ニ ュ ー ス ポ ー ツ 実 習	2	実	Ⅰ		スポーツ指導者資格	○
スポーツ教育支援マネジメント演習	2	演	Ⅵ			
地 域 ス ポ ー ツ 支 援 演 習	2	演	Ⅳ			
レ ク リ エ ー シ ョ ン 支 援 演 習	2	演	Ⅵ			
運動負荷試験・プログラム演習	2	演	Ⅴ (集中)			
生 涯 ス ポ ー ツ 施 設 実 習	1	実	Ⅵ (集中)			
レジスタンス・エクササイズ実習	1	実	Ⅱ		スポーツ指導者資格	○
テーピング・マッサージ実習	1	実	Ⅲ			
ス ポ ー ツ カ ウ ン セ リ ン グ 実 習	1	実	Ⅳ (集中)		スポーツ指導者資格	

*スポーツ指導者資格は一部AB保体科目の履修も必要なため、「諸資格」のページも参照すること。

選択科目B(SB)

(E生涯スポーツSB)

授 業 科 目	単 位 数	講 実 演	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
体 育 原 理 B Ⅰ	1	講	Ⅰ 前	(小)体育 (中・高(保体))体育原理	スポーツ指導者資格	B類保健 体育S
体 育 原 理 B Ⅱ	1	講	Ⅰ 後	(小)体育 (中・高(保体))体育原理	スポーツ指導者資格	B類保健 体育S
体 育 ・ ス ポ ー ツ 心 理 学	2	講	Ⅱ	(中・高(保体)) 体育心理学	スポーツ指導者資格	A・B類保健 体育SA
体 育 ・ ス ポ ー ツ 経 営 学	2	講	Ⅳ	(中・高(保体)) 体育経営管理学		A・B類保健 体育SA
運 動 生 理 学 B Ⅰ	1	講	Ⅲ 前	(小)体育 (中・高(保体))生理学 (運動生理学を含む。) 【(中・高)保健】生理学	スポーツ指導者資格	B類保健 体育S
運 動 生 理 学 B Ⅱ	1	講	Ⅲ 後	(小)体育 (中・高(保体))生理学 (運動生理学を含む。) 【(中・高)保健】生理学	スポーツ指導者資格	B類保健 体育S
解 剖 生 理 学	2	講	Ⅰ	(中・高(保体))生理学 【中・高(保健)】生理学		A・B類保健 体育SA
ス ポ ー ツ バ イ オ メ カ ニ ク ス	2	講	Ⅲ	(中・高(保体))生理学 【中・高(保健)】生理学	スポーツ指導者資格	A・B類保健 体育SA

課程共通選択科目(SC)

※p.67に記載のSC科目一覧の中から、4単位以上修得する。

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(E生涯スポーツSZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	コース	諸資格	備考
卒 業 研 究	④	ⅦⅧ	生涯スポーツコース		

教育支援課程〔E類〕教育支援専攻

課程共通選択科目(SC)

下記の授業科目から、自コース以外で開設している科目を4単位以上修得する。

(E課程共通SC)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (開設コース)
生 涯 学 習 と キ ャ リ ア 形 成	2	演	Ⅱ		社会教育主事	生涯学習・文化遺産教育(S)
生 涯 学 習 概 説 Ⅰ	2	講	Ⅰ		司書 社会教育主事 学芸員	生涯学習・文化遺産教育(S)※表現教育コースの学生が履修した場合、SBの単位となり、SCの単位とはならない。
生 涯 学 習 社 会 と 博 物 館	2	講	Ⅲ		学芸員	生涯学習・文化遺産教育(S)
図 書 館 情 報 学 概 説 Ⅰ	2	講	Ⅲ		司書	生涯学習・文化遺産教育(S)
文 化 財 科 学 概 説	2	講	Ⅰ			生涯学習・文化遺産教育(S)
学 校 図 書 館 サ ー ビ ス 特 論	2	講	Ⅳ		司書 学校司書	生涯学習・文化遺産教育(S)
文 化 遺 産 教 育 と 考 古 学	2	講	Ⅰ			生涯学習・文化遺産教育(S)
文 化 遺 産 と 保 存 科 学	2	講	Ⅱ			生涯学習・文化遺産教育(S)
人 間 理 解 の 心 理 学	2	講	Ⅱ			カウンセリング(S)
障 害 者 ・ 障 害 児 心 理 学	2	講	Ⅳ			カウンセリング(SA)
児 童 福 祉 論	2	講	Ⅲ		社会福祉士	ソーシャルワーク(SA)
社 会 保 障 論 Ⅰ	2	講	Ⅲ		社会福祉士	ソーシャルワーク(SA)
障 害 者 福 祉 論	2	講	Ⅳ		社会福祉士	ソーシャルワーク(SA)
ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 論 Ⅰ	2	講	Ⅰ		社会福祉士	ソーシャルワーク(SA)
医 療 福 祉 論	2	講	Ⅴ		社会福祉士	ソーシャルワーク(SA)
ド イ ツ 語 入 門 Ⅰ	1	演	Ⅰ			多文化共生教育(SA)
ド イ ツ 語 入 門 Ⅱ	1	演	Ⅱ			多文化共生教育(SA)
ド イ ツ 語 応 用 Ⅰ	1	演	Ⅰ			多文化共生教育(SA)
ド イ ツ 語 応 用 Ⅱ	1	演	Ⅱ			多文化共生教育(SA)
ド イ ツ 語 実 践 Ⅰ	1	演	Ⅴ			多文化共生教育(SA)
ド イ ツ 語 実 践 Ⅱ	1	演	Ⅵ			多文化共生教育(SA)
フ ラ ン ス 語 入 門 Ⅰ	1	演	Ⅰ			多文化共生教育(SA)
フ ラ ン ス 語 入 門 Ⅱ	1	演	Ⅱ			多文化共生教育(SA)
フ ラ ン ス 語 応 用 Ⅰ	1	演	Ⅰ			多文化共生教育(SA)
フ ラ ン ス 語 応 用 Ⅱ	1	演	Ⅱ			多文化共生教育(SA)
フ ラ ン ス 語 実 践 Ⅰ	1	演	Ⅴ			多文化共生教育(SA)
フ ラ ン ス 語 実 践 Ⅱ	1	演	Ⅵ			多文化共生教育(SA)
中 国 語 入 門 Ⅰ	1	演	Ⅰ			多文化共生教育(SA)
中 国 語 入 門 Ⅱ	1	演	Ⅱ			多文化共生教育(SA)
中 国 語 応 用 Ⅰ	1	演	Ⅰ			多文化共生教育(SA)
中 国 語 応 用 Ⅱ	1	演	Ⅱ			多文化共生教育(SA)
中 国 語 実 践 Ⅰ	1	演	Ⅴ			多文化共生教育(SA)
中 国 語 実 践 Ⅱ	1	演	Ⅵ			多文化共生教育(SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (開設コース)
コ リ ア 語 入 門 I	1	演	I			多文化共生教育(SA)
コ リ ア 語 入 門 II	1	演	II			多文化共生教育(SA)
コ リ ア 語 応 用 I	1	演	I			多文化共生教育(SA)
コ リ ア 語 応 用 II	1	演	II			多文化共生教育(SA)
コ リ ア 語 実 践 I	1	演	V			多文化共生教育(SA)
コ リ ア 語 実 践 II	1	演	VI			多文化共生教育(SA)
言 語 と 多 文 化 A	2	講	IV奇			多文化共生教育(SA) ※表現教育コースの学 生が履修した場合、SB の単位となり、SCの単位 とはならない。
言 語 と 多 文 化 B	2	講	IV偶			多文化共生教育(SA) ※表現教育コースの学 生が履修した場合、SB の単位となり、SCの単位 とはならない。
現 代 文 化 人 類 学 A	2	講	III奇			多文化共生教育(SA)
現 代 文 化 人 類 学 B	2	講	III偶			多文化共生教育(SA)
異文化間協働へのアプローチA	2	演	III奇			多文化共生教育(SA) ※情報教育コースの学 生が履修した場合、SB の単位となり、SCの単位 とはならない。
異文化間協働へのアプローチB	2	演	III偶			多文化共生教育(SA) ※情報教育コースの学 生が履修した場合、SB の単位となり、SCの単位 とはならない。
社 会 調 査 方 法 論 演 習 A	2	演	VI奇			多文化共生教育(SA)
社 会 調 査 方 法 論 演 習 B	2	演	VI偶			多文化共生教育(SA)
教 育 情 報 化 論 A	2	講	III			情報教育(S)
教 育 情 報 化 論 B	2	講	III			情報教育(S)
教 育 情 報 化 論 C	2	講	IV			情報教育(S)
教 育 情 報 化 支 援 教 材 論 A	2	講	III			情報教育(SA)
教 育 情 報 化 支 援 教 材 論 B	2	講	IV			情報教育(SA)
情 報 デ ザ イ ン 論	2	講	III			情報教育(SA)
情 報 メ デ ィ ア 論	2	講	IV			情報教育(SA)
音 楽 表 現 概 説	2	講	II			表現教育(S)
イ ン プ ロ 研 究 A	2	演	IV偶			表現教育(SA)
イ ン プ ロ 研 究 B	2	演	IV奇			表現教育(SA)
批 評 理 論 研 究	2	演	III奇			表現教育(SA)
戯 曲 翻 訳 研 究	2	演	III偶			表現教育(SA)
スポーツアントレプレナーシップ論	2	講	III			生涯スポーツ(SA)
身 体 知 と 文 化	2	講	I			生涯スポーツ(SA)
ス ポ ー ツ 産 業 論	2	講	III			生涯スポーツ(SA)

21

資格又は受験資格取得 に必要な単位及び履修方法 （諸資格）

1 司書

本 学 の 開 設 授 業 科 目 ・ 単 位 数 等						講習相当科目・単位数	
授業科目	授業内容	単位数	標準開設学期	履修方法	開設場所	科 目	単位数
生涯学習概説Ⅰ	同 左	2	Ⅰ	必修	E生涯学習S E表現教育SB	生涯学習概論	2
図書館情報学概説Ⅰ	同 左	2	Ⅲ	必修	E生涯学習S	図書館概論	2
情報検索技術論	同 左	2	V 奇	1 科目 選択	E生涯学習SA	図書館情報技術論	2
情報管理技術論	同 左	2	V 偶			図書館制度・経営論	2
地域図書館経営論	同 左	2	Ⅳ	必修		図書館サービス概論	2
地域図書館サービス論	同 左	2	Ⅳ	必修		情報サービス論	2
情報サービス論	同 左	2	V	必修		児童サービス論	2
子ども図書館サービス論	同 左	2	Ⅲ	必修		情報サービス演習	2
資料・情報サービス演習	同 左	2	Ⅵ	1 科目 選択		図書館情報資源概論	2
情報検索演習	同 左	2	Ⅵ			情報資源組織論	2
メディア資源論	同 左	2	Ⅲ	必修		情報資源組織演習	2
資料・情報組織法Ⅰ	同 左	2	Ⅲ	必修			
資料・情報組織法Ⅱ	同 左	2	Ⅳ	必修			
図書館特論	同 左	2	Ⅵ偶	2 科目 選択	E生涯学習SA	図書館基礎特論	1
学校図書館サービス特論	同 左	2	Ⅳ		E生涯学習S	図書館サービス特論	1
学術情報メディア特論	同 左	2	Ⅵ奇		E生涯学習SA	図書館情報資源特論	1
図書館情報学概説Ⅱ	同 左	2	Ⅳ			図書・図書館史	1
図書館建築論	同 左	2	Ⅲ			図書館施設論	1
図書館情報学演習Ⅰ	同 左	2	V			図書館総合演習	1

* 司書の資格取得手続き

上記単位を取得した者で資格証明が必要な者は、大学に対し「資格取得証明書」の発行を申請すること。

2 学校司書

本学の開設授業科目・単位数等					「学校司書のモデルカリキュラム」 における文部科学省の提示科目		
授業科目名	単 位 数	標 準 開 設 学 期	履 修 方 法	開設場所		科目名	単 位 数
学校経営と学校図書館	2	V	必修	教育創成科目	学校図書館の運営・管理・サービスに関する科目	学校図書館概論	2
情報管理技術論	2	V 偶	1 科 目 選 択	E生涯学習 SA		図書館情報技術論	2
情報検索技術論	2	V 奇				図書館情報資源概論	2
メディア資源論	2	Ⅲ	必修			情報資源組織論	2
資料・情報組織法Ⅰ	2	Ⅲ	必修			情報資源組織演習	2
資料・情報組織法Ⅱ	2	Ⅳ	必修			学校図書館サービス論	2
学校図書館サービス特論	2	Ⅳ	必修	E生涯学習 S		学校図書館 情報サービス論	2
情報サービス論	2	V	必修	E生涯学習 SA			
資料・情報サービス演習	2	Ⅵ	1 科 目 選 択				
情報検索演習	2	Ⅵ					
教育の理念と歴史	2	Ⅰ・Ⅱ	必修	学校教育教員養成課程 教育基礎科目	児童生徒に対する教育支援に関する科目	学校教育概論	2
教育心理学	2	Ⅲ	必修				
特別支援教育の理解	2	Ⅰ・Ⅱ	1 科 目 選 択				
特別な教育的ニーズの 理解と支援	2	V					
教育課程の理論と実践	2	Ⅳ	必修				
学習指導と学校図書館	2	Ⅵ	必修	教育創成科目		学習指導と学校図書館	2
読書と豊かな人間性	2	V	必修			読書と豊かな人間性	2

* 学校司書の資格取得手続き

上記単位を取得した者で資格証明が必要な者は、大学に対し「学校司書に関する科目の単位修得証明書」の発行を申請すること。

3 社会教育主事(社会教育士)

本 学 の 開 設 授 業 科 目 ・ 単 位 数 等						講習相当科目・単位数	
授業科目	授業内容	単位数	標準 開設 学期	開設場所	履修方法	科 目	単位数
生涯学習概説Ⅰ	同 左	2	Ⅰ	E生涯学習S E表現教育SB	必修	生涯学習概論	4
生涯学習概説Ⅱ	同 左	2	Ⅱ	E生涯学習SA E表現教育SB			
生涯学習支援論Ⅰ	同 左	2	Ⅲ	E生涯学習SA		生涯学習支援論	4
生涯学習支援論Ⅱ	同 左	2	Ⅳ				
社会教育経営論Ⅰ	同 左	2	Ⅴ	E生涯学習SA		社会教育経営論	4
社会教育経営論Ⅱ	同 左	2	Ⅵ				
社会教育演習Ⅰ	同 左	2	Ⅴ	E生涯学習SA		社会教育演習、社会教育実 習又は社会教育課題研究 のうち1以上の科目	3
社会教育演習Ⅱ	同 左	2	Ⅵ				
社会教育実習	同 左	1	Ⅲ (集中)	E生涯学習SA		社会教育実習	1
現代社会と生涯学習	同 左	2	Ⅰ	E生涯学習S	4科目以上 選択必修	社会教育特講	8
生涯学習とキャリア形成	同 左	2	Ⅱ				
同和問題と社会教育	同 左	2	Ⅱ	E生涯学習SA			
地域教育基礎論	同 左	2	Ⅲ				
コミュニティ形成と社会教育	同 左	2	Ⅲ				
社会教育実践論	同 左	2	Ⅳ				
性と人権	同 左	2	Ⅳ				

＊社会教育主事の資格および社会教育士(養成課程)の称号取得手続き

上記単位を取得した者で資格および称号証明が必要な者は、大学に対し「社会教育主事に関する科目の単位修得証明書」の発行を申請すること。

4 学芸員

本 学 の 開 設 授 業 科 目 ・ 単 位 数 等						学芸員に関する科目・単位数	
授業科目	授業内容	単位数	標準 開設 学期	開設場所	履修方法	科 目	単位数
生涯学習社会と博物館	同 左	2	Ⅲ	E生涯学習S	必修	博物館教育論	2
博物館学基礎論	同 左	2	Ⅳ	E生涯学習SA		博物館概論	2
博物館資料論	同 左	2	Ⅲ	E生涯学習SA		博物館資料論	2
博物館経営論	同 左	2	Ⅲ			博物館経営論	2
博物館実習Ⅰ	同 左	2	Ⅴ	E生涯学習SA		博物館実習	3
博物館実習Ⅱ	同 左	2	Ⅵ				
博物館実習Ⅲ	同 左	②	ⅦⅧ				
博物館情報・メディア論	同 左	2	Ⅴ	E生涯学習SA		博物館情報・メディア論	2
生涯学習概説Ⅰ	同 左	2	Ⅰ	E生涯学習S E表現教育SB	1科目選択	生涯学習概論	2
生涯学習概説Ⅱ	同 左	2	Ⅱ	E生涯学習SA E表現教育SB			
博物館資料保存論	同 左	2	Ⅳ	E生涯学習SA	必修	博物館資料保存論	2
博物館展示論	同 左	2	Ⅳ	E生涯学習SA	1科目選択	博物館展示論	2
博物館と展示の活用	同 左	2	Ⅳ	教育創成科目			

*履修上の注意

- ①「生涯学習社会と博物館」⇒「博物館学基礎論」の順番に履修すること。
- ②「博物館実習Ⅰ」は「生涯学習社会と博物館」「博物館学基礎論」の単位修得後に履修すること。
- ③「博物館実習Ⅰ」⇒「博物館実習Ⅱ」の順番に履修し、「博物館実習Ⅲ」は「博物館実習Ⅰ及びⅡ」の単位修得後に履修すること。
- ④「博物館実習Ⅲ」は博物館園における実務実習であり、履修前までに資格取得に必要な他の科目全てを修得済みであることが望ましい。

*学芸員の資格取得手続き

上記単位を修得した者で資格証明が必要な者は、大学に対し「資格取得証明書」の発行を申請すること。

5 社会福祉士

※一部の科目に受講人数の制限がありますので、ソーシャルワークコースが優先となります。

本 学 の 開 設 授 業 科 目 ・ 単 位 数 等					社会福祉士指定科目		
授 業 科 目	単位 数	標準開 設学期	開 設 場 所	履修 方法	科 目		指定 基準 時間
医学概論	2	Ⅱ	EソーシャルワークSA	必 修	係及人 性び間 のそと 理の社 解関会	医学概論	30
心理学と心理的支援	2	Ⅰ	EソーシャルワークSA			心理学と心理的支援	30
社会理論と社会システム	2	Ⅱ	EソーシャルワークSA E表現教育SB			社会学と社会システム	30
社会福祉原論Ⅰ	2	Ⅰ	EソーシャルワークS A幼児教育SB	必 修	や社会 基福祉 盤の理 解原理	社会福祉の原理と政策	60
社会福祉原論Ⅱ	2	Ⅱ	EソーシャルワークS			社会保障	60
社会保障論Ⅰ	2	Ⅲ	EソーシャルワークSA			権利擁護を支える法制度	30
社会保障論Ⅱ	2	Ⅳ	EソーシャルワークSA				
権利擁護と成年後見	2	Ⅴ	EソーシャルワークSA				
地域福祉論Ⅰ	2	Ⅳ	EソーシャルワークSA D養護SB	必 修	複 及合 化包 ・複 括的 な化 支し 援た の福 祉理 解課 題	地域福祉と包括的支援体制	60
地域福祉論Ⅱ	2	Ⅴ	EソーシャルワークSA			高齢者福祉	30
高齢者福祉論	2	Ⅳ	EソーシャルワークSA A・B家庭SB			障害者福祉	30
障害者福祉論	2	Ⅳ	EソーシャルワークSA			児童・家庭福祉	30
児童福祉論	2	Ⅲ	EソーシャルワークSA A幼児教育SB A・B家庭SB D養護SB			貧困に対する支援	30
公的扶助論	2	Ⅲ(集中)	EソーシャルワークSA			保健医療と福祉	30
医療福祉論	2	Ⅴ	EソーシャルワークSA			刑事司法と福祉	30
司法福祉論	2	Ⅴ	EソーシャルワークSA				
ソーシャルワーク論Ⅰ	2	Ⅰ	EソーシャルワークSA	必 修	ソ ー シ ャ ル ワ ー ク の 基 盤 及 び 理 論 と 方 法 の 理 解	ソーシャルワークの基盤と専門職	30
ソーシャルワーク論Ⅱ	2	Ⅱ	EソーシャルワークSA			ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	30
ソーシャルワーク論Ⅲ	2	Ⅲ	EソーシャルワークSA			ソーシャルワークの理論と方法	60
ソーシャルワーク論Ⅳ	2	Ⅳ	EソーシャルワークSA			ソーシャルワークの理論と方法(専門)	60
ソーシャルワーク論Ⅴ	2	Ⅴ	EソーシャルワークSA			社会福祉調査の基礎	30
ソーシャルワーク論Ⅵ	2	Ⅵ	EソーシャルワークSA			福祉サービスの組織と経営	30
社会福祉調査	2	Ⅵ	EソーシャルワークSA				
社会福祉経営	2	Ⅴ	EソーシャルワークSA				
ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	Ⅳ	EソーシャルワークSA	必 修	ソ ー シ ャ ル ワ ー ク の 理 解 の 方 法 及 び	ソーシャルワーク演習	30
ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	Ⅴ	EソーシャルワークSA			ソーシャルワーク演習(専門)	120
ソーシャルワーク演習Ⅲ	2	Ⅴ	EソーシャルワークSA				
ソーシャルワーク演習Ⅳ	2	Ⅵ	EソーシャルワークSA			ソーシャルワーク実習指導	90
ソーシャルワーク演習Ⅴ	2	Ⅵ	EソーシャルワークSA				
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	Ⅲ	EソーシャルワークSA				
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2	Ⅴ	EソーシャルワークSA				
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	2	Ⅵ	EソーシャルワークSA			ソーシャルワーク実習	240
ソーシャルワーク実習	⑥	ⅤⅥ	EソーシャルワークSA				

＊社会福祉士の受験資格取得手続き

上記単位を取得した者で受験資格証明が必要な者は、大学に対し「卒業証明書」及び「社会福祉士指定科目の履修証明書」の発行を申請すること。

6 スクール(学校)ソーシャルワーカー

本 学 の 開 設 授 業 科 目 ・ 単 位 等					スクール(学校)ソーシャルワーク指定科目		
授 業 科 目	単 位 数	標 準 開 設 学 期	開設場所	履修 方法	科 目	指定基準時 間	
スクールソーシャルワーク論	2	Ⅵ	E ソーシャル ワーク S A	必修	スクール(学校)ソーシャルワーク論	30	
スクールソーシャルワーク演習・実習指導	2	Ⅶ			スクール(学校)ソーシャルワーク演習	15	
					スクール(学校)ソーシャルワーク 実習指導	15	
スクールソーシャルワーク実習	②	ⅦⅧ			スクール(学校)ソーシャルワーク実習	80	
教育組織論	2	I・Ⅱ	学校教育教員養成課程 E B			「教育の基礎的理解に関する科目」のうち「教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校への対応を含む。)」と「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)」を含む科目の教育内容(1科目以上)	30
教育心理学	2	Ⅲ				「教育の基礎的理解に関する科目」のうち「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程」と「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」を含む科目、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」のうち「生徒指導の理論及び方法」「教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法」「進路指導(キャリア教育に関する基礎的な事項を含む)の理論及び方法」を含む科目の教育内容(1科目以上)	30
特別支援教育の理解	2	I・Ⅱ					
精神保健学概論	2	Ⅵ	E ソーシャル ワーク S A			「精神保健の課題と支援」又は「現代の精神保健の課題と支援」	30

注意) スクール(学校)ソーシャルワーカーは社会福祉士資格取得者が受けることのできる認定である。

したがってスクール(学校)ソーシャルワーカーのみの認定は受けられない。

* 上記単位を取得し、大学に申し出た者には一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟認定スクール(学校)ソーシャルワーク教育課程修了者として修了証が交付される。(その際、社会福祉士登録証の写し等が必要となる。)

7 公認心理師

公認心理師は、カウンセリングコースの学生のみが取得を目指すことができる資格であり、他の課程、専攻・コースの学生は取得できないので注意すること。

[授業科目名等の記載については省略]

8 スポーツ指導者関連資格

本学は公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成免除適応コースに認定されている。

当該科目の履修後に申請を行い、資格取扱団体の試験に合格することで、「共通科目Ⅲ」、公認スポーツプログラマー、公認ジュニアスポーツ指導員、公認水泳コーチそれぞれの資格が取得可能。

取得を希望する者は説明会に出席すること。（説明会の日程などは学芸ポータル等で連絡予定。）

①共通科目Ⅲ ※所属コースにより履修が必要な科目が異なる為、注意すること。

1)E類生涯スポーツコース所属学生対象

授業科目名	単位数	標準開設 学期	履修方法	開設場所	備考
スポーツコーチング論A	2	Ⅲ	必修	E生スポSA	
スポーツコーチング論B	2	Ⅳ	必修	E生スポSA	
スポーツコーチング論C	2	Ⅳ	必修	E生スポSA	
健康とスポーツの栄養学	2	Ⅳ	必修	E生スポSA	
ダイバーシティとスポーツ インクルーシブスポーツ	2	Ⅲ【偶】 Ⅲ【奇】	1科目 選択	AB保体SA AB保体SA	
生涯スポーツとキャリア形成	2	Ⅱ	必修	E生スポS	
運動処方論	2	Ⅳ	必修	E生スポS	
スポーツリハビリテーション	2	Ⅱ	必修	E生スポSA	
コーチングの心理学	2	V	1科目 選択	E生スポSA	
運動学習と指導の心理学		Ⅳ		E生スポSA	

2) 1)以外の教育支援課程所属学生対象

授業科目名	単位数	標準開設 学期	履修方法	開設場所	備考
スポーツコーチング論A	2	Ⅲ	必修	E生スポSA	
スポーツコーチング論B	2	Ⅳ	必修	E生スポSA	
スポーツコーチング論C	2	Ⅳ	必修	E生スポSA	
健康とスポーツの栄養学	2	Ⅳ	必修	E生スポSA	
ダイバーシティとスポーツ インクルーシブスポーツ	2	Ⅲ【偶】 Ⅲ【奇】	1科目 選択	AB保体SA AB保体SA	
体育原理AⅠ	1	Ⅰ前	1科目 選択	A保体S	
体育原理BⅠ		Ⅰ前		B保体S E生スポSB	
学校部活動総論	2	V	必修	AB保体SA	
運動処方論	2	Ⅳ		E生スポS	
運動生理学AⅠ	1	Ⅲ前	1科目 選択	A保体S	
運動生理学BⅠ		Ⅲ前		B保体S E生スポSB	
スポーツリハビリテーション	2	Ⅱ	1科目 選択	E生スポSA	
学校安全・救急処置		Ⅱ		AB保体SA	
コーチングの心理学	2	V	1科目 選択	E生スポSA	
運動学習と指導の心理学		Ⅳ		E生スポSA	
体育・スポーツ心理学		Ⅱ		AB保体SA E生スポSB	

*共通科目Ⅲの資格取得手続き

- 上記の履修が必要な科目を全て履修した後、学務課窓口まで申請を行うこと。
- 学務課への申請後、対象試験の合格を得ることにより、資格を取得することができる。

以下②～⑤については、基礎資格として①「共通科目Ⅲ」の取得が必須になる。

②公認スポーツプログラマー

授業科目名	単位数	標準開設 学期	履修方法	開設場所	備考
スポーツコーチング論A	2	Ⅲ	必修	E生スポSA	
生涯スポーツ基礎実習	1	Ⅲ	必修	E生スポSA	
ニュースポーツ実習	2	I	必修	E生スポSA	
レジスタンス・エクササイズ実習	1	Ⅱ	必修	E生スポSA	
発育発達学	2	I	必修	E生スポSA	
ダイバーシティとスポーツ	2	Ⅲ【偶】	1科目 選択	AB保体SA	
インクルーシブスポーツ		Ⅲ【奇】		AB保体SA	
スポーツ医学・救急処置	2	Ⅲ	必修	E生スポSA	
学校保健学A I	1	Ⅱ前	1科目 選択	A保体S	※E類生涯ス ポーツの学生は 履修不要
学校保健学B I		Ⅱ前		B保体S	
学校安全・救急処置	2	Ⅱ	必修 ※	AB保体SA	
体育・スポーツ測定評価	2	Ⅳ	必修	E生スポSA	
スポーツカウンセリング実習	1	Ⅳ (集中)	1科目 選択	E生スポSA	
体育・スポーツ心理学	2	Ⅱ		AB保体SA E生スポSB	

③公認ジュニアスポーツ指導員

授業科目名	単位数	標準開設 学期	履修方法	開設場所	備考
スポーツコーチング論B	2	Ⅳ	1科目 選択	E生スポSA	※1 ※3
中等保健体育科教育法 I		Ⅲ		各教科の指導法	
運動学習と指導の心理学	2	Ⅳ	1科目 選択	E生スポSA	
コーチングの心理学		V		E生スポSA	
体育・スポーツ心理学		Ⅱ		AB保体SA E生スポSB	
発育発達学	2	I	1科目 選択	E生スポSA	※4
学校保健学A I	1	Ⅱ前		A保体S	
学校保健学B I		Ⅱ前		B保体S	
発育発達学	2	I	1科目 選択	E生スポSA	※4
運動方法学総論A I	1	Ⅳ前		A保体S	
運動方法学総論B I		Ⅳ前		B保体S	
健康とスポーツの栄養学	2	Ⅳ	必修	E生スポSA	
スポーツリハビリテーション	2	Ⅱ	1科目 選択	E生スポSA	
学校安全・救急処置		Ⅱ		AB保体SA	
スポーツコーチング論A	2	Ⅲ	必修	E生スポSA	
ニュースポーツ実習	2	I	1科目 選択	E生スポSA	※1 ※3
中等保健体育科教育法 I		Ⅲ		各教科の指導法	
体育科学研究	1	V・VI		SP	※2
初等体育科教育法	2	Ⅳ・V	1科目 選択	各教科の指導法	※1 ※3
中等保健体育科教育法 I		Ⅲ		各教科の指導法	

※1「初等体育科教育法」「中等保健体育科教育法 I」は、E類の学生は担当教員に受講が許可された場合のみ受講可。

※2「体育科学研究」は、E類生涯スポーツの学生は受講対象外とする。

※3※4 「中等保健体育科教育法 I」及び「発育発達学」は複数の選択科目区分に含まれる。

④公認水泳コーチ1

授業科目名	単位数	標準開設 学期	履修方法	開設場所	備考
水泳A	1	I	1科目 選択	A保体S	
水泳B		I		B保体S	

⑤公認水泳コーチ3

授業科目名	単位数	標準開設 学期	履修方法	開設場所	備考
水泳A	1	I	1科目 選択	A保体S	
水泳B		I		B保体S	
運動生理学A I	1	Ⅲ前	1科目 選択	A保体S	
運動生理学B I		Ⅲ前		B保体S E生スポSB	
スポーツバイオメカニクス	2	Ⅲ	必修	AB保体SA E生スポSB	
体育・スポーツ心理学	2	Ⅱ	必修	AB保体SA E生スポSB	
健康とスポーツの栄養学	2	Ⅳ	必修	E生スポSA	
健康スポーツ医学	2	Ⅴ	必修	E生スポSA	
スポーツリハビリテーション	2	Ⅱ	必修	E生スポSA	

*上記②～⑤の資格取得手続き

- 上記の履修が必要な科目を全て履修した後、学務課窓口まで申請を行うこと。
- 学務課への申請後、対象試験の合格を得ることにより、資格を取得することができる。

9 健康運動指導士・健康運動実践指導者

健康運動指導士・健康運動実践指導者は、E類生涯スポーツコース所属学生のみが取得できる資格であり、他コースの学生は取得できないので注意すること。

[授業科目名等の記載については省略]

10 登録日本語教員(令和7年度以降入学生対象)

登録日本語教員資格を取得するには、日本語教員試験の「**基礎試験**」及び「**応用試験**」の合格と、登録実践研修機関が実施する「**実践研修**」を修了する必要がある。

本学は文部科学省より登録日本語教員養成機関としての認定を受けており、「日本語教員養成プログラム」を修了することで、申請により日本語教員試験のうち「**基礎試験**」の免除を受けることができる。

【「日本語教員養成プログラム」履修方法】に記載の必修科目の単位を全て修得し、修了審査に合格した者には養成課程修了証書を発行する。

「日本語教員養成プログラム」の受講を希望する者は、1年次2月の説明会に参加し、受講申請要項(以下、要項という)に従って申請書等の必要書類を提出すること。なお、同プログラムの定員は1学年あたり20名とし、受講希望者が定員を超える場合は、書類審査を行う。また、受講申請に先行してⅠ・Ⅱ期の授業科目の単位を修得した場合、同プログラム内で履修したこととして取り扱う。

なお、登録日本語教員の資格を取得するには、本学での「日本語教員養成プログラム」の修了の他、日本語教員試験の「応用試験」の合格、外部機関での「実践研修」の修了が必要となる。4年次において、外部機関で実施される「実践研修」の受講を希望する者は、「実践研修前要履修科目」欄に○が付されている科目を3年次終了時まで修得し、学務課窓口にて「実践研修前要履修科目単位取得証明」発行の手続きを行うこと。在学中に実践研修を修了できなかった場合、卒業後、自己開拓により実践研修を受講することになるが、その際は外部の実践研修機関の情報を提供する。

【「日本語教員養成プログラム」履修方法】

本学の開設授業科目・単位数等						登録日本語教員養成課程コアカリキュラム
授業科目	単位数	標準開設学期	履修方法	実践研修前要履修科目	開設場所	一般目標(学習項目No.) ※学習項目の詳細は要項を参照すること
日本語学概論Ⅰ	2	Ⅰ	必修		A国語S B国語S	・言語と社会の関係(9) ・日本語の構造(40,43,44,45)
日本語学概論Ⅱ	2	Ⅱ				・言語と社会の関係(8) ・日本語の構造(41,42,43)
日本語教育概論	2	Ⅰ		○	A国語SA B国語SA	・異文化接触(2,3) ・日本語教育の歴史と現状(6,7) ・言語教育法・実習(21,23,31) ・日本語の構造(41,42,43)
子どもの日本語教育A 子どもの社会文化的背景とバイリンガルイズム	2	Ⅱ		○		・世界と日本(1) ・異文化接触(3) ・日本語教育の歴史と現状(7) ・異文化コミュニケーションと社会(13) ・異文化理解と心理(16,18,19) ・異文化間教育とコミュニケーション教育(32,33)
日本語教育文法	2	Ⅲ		○		・言語教育法・実習(25,29) ・日本語の構造(39,40,41,42,43,44,45)
日本語教育の方法Ⅰ 教授法と教室活動	2	Ⅲ		○		・言語使用と社会(10,11,12) ・言語理解の過程(15) ・言語習得・発達(17) ・言語教育法・実習(23,24,26,27) ・コミュニケーション能力(49)
言語学概論	2	Ⅳ				・日本語教育の歴史と現状(5) ・言語と社会の関係(8) ・言語使用と社会(12) ・言語の構造一般(37,38) ・日本語の構造(39) ・コミュニケーション能力(47,48)
第二言語習得論	2	Ⅳ		○		・世界と日本(1) ・言語理解の過程(15) ・言語習得・発達(16,17) ・異文化理解と心理(19) ・言語教育法・実習(22,29) ・異文化間教育とコミュニケーション教育(34)
日本語教育の方法Ⅱ 教材の開発と活用	2	Ⅳ		○		・言語使用と社会(11) ・言語理解の過程(14) ・言語教育法・実習(25,30,31) ・言語教育と情報(35,36) ・コミュニケーション能力(46,47,48)
日本語教育の方法Ⅲ 授業実践と省察	2	Ⅴ		○		・異文化理解と心理(18) ・言語教育法・実習(20,21,24,26,27,30) ・コミュニケーション能力(47,49,50)
日本語音声	2	Ⅵ				・言語と社会の関係(8) ・言語使用と社会(10) ・言語理解の過程(14) ・言語の構造一般(38) ・日本語の構造(40)

本 学 の 開 設 授 業 科 目 ・ 単 位 数 等						登録日本語教員養成課程コアカリキュラム
異文化理解と心理	2	V	必修		A国語SA B国語SA	・世界と日本(1) ・言語と社会の関係(9) ・異文化コミュニケーションと社会(13) ・異文化理解と心理(18,19) ・異文化間教育とコミュニケーション教育(32,33,34) ・コミュニケーション能力(46,50)
日本語教育の歴史と言語政策	2	VI			A国語SA B国語SA	・世界と日本(1) ・異文化接触(2,3) ・日本語教育の歴史と現状(4,5,6) ・言語と社会の関係(9) ・異文化コミュニケーションと社会(13)
日本語文法	2	III	自由選択		A国語S B国語S	・言語理解の過程(14) ・言語の構造一般(37,38) ・日本語の構造(43,45)
子どもの日本語教育B 学校・地域の現状と課題	2	VI			A国語SA B国語SA	・異文化接触(3) ・言語使用と社会(12) ・言語教育法・実習(20,22,23,26,27,31) ・言語教育と情報(35) ・コミュニケーション能力(49)

22

教育支援課程 コースガイド

目 次

【教育支援課程】

教育支援専攻（E類）

生涯学習・文化遺産教育コース	・ ・ ・ ・ ・ 82
カウンセリングコース	・ ・ ・ ・ ・ 85
ソーシャルワークコース	・ ・ ・ ・ ・ 87
多文化共生教育コース	・ ・ ・ ・ ・ 90
情報教育コース	・ ・ ・ ・ ・ 94
表現教育コース	・ ・ ・ ・ ・ 96
生涯スポーツコース	・ ・ ・ ・ ・ 99

教育支援専攻(E類) 生涯学習・文化遺産教育コース

1. コースの目的・目標

変化する時代の中で一人ひとりが生きる力を培い、さまざまな立場の人々が協力し、支え合って新しい社会を創造していくために、誰もがいつでも、どこでも学び続ける必要があります。

本コースは、広い視野と高い専門性、実践的指導力をもって、地域や職場、公民館・図書館・博物館、学校などにおいて互いにつながりあい広がる多彩な市民学習活動や学校教育を支援する人材、および文化財とその保存に強い興味と関心を持ち、学校や地域における教育的活用に応発的な人材の養成を目的としています。ものごとを社会的・科学的・批判的に見る力、他に共感し、交流し、協働していく態度、文化遺産を大切に伝えようとする姿勢を重視しています。

2. カリキュラムの特色と構造

本コースでは、1年次で生涯学習・文化遺産教育に関する基本的な科目を一通り学びながら、2年次に「生涯学習領域」「文化遺産教育領域」の各履修モデルに基づき、専門学習を深めます。どの領域について学ぶかは、1年次の秋に、領域希望調査や指導教員面接などを行い、それらの結果をもとに各自が総合的に判断し、定めます。1年次の間に、将来進もうと思う領域や研究室を念頭において選択科目の履修を進めてください。

生涯学習領域では、社会教育学、図書館学、博物館学を中心に、生涯学習に関する理念や制度、地域や学校などでの学習活動や教育支援をデザインする方法について学びます。実践を通して能動的に学ぶ学習方法(フィールドワークやグループ活動などを活かした各種実習など)を重視しています。3年次からは、各教員の専門分野に応じて用意される演習への参加を基本に、専門科目を本格的に履修します。

文化遺産教育領域では、考古学、文化財科学、保存科学を中心に、諸文化財に関する調査・研究法、資料作成法、保存・修復法などについて、それぞれの基礎的な専門知識や理論、技術を多方面から、かつ互いに強い関連性を持って修得できるよう編成しています。文化財を実物・現地に即して学べるよう、実習、実地研究、実験、演習を重視した編成になっています。

いずれの領域も、4年次には担当教員の指導のもとで卒業研究を行い、卒業論文を執筆し、提出します。

3. 履修の方法

専門分野を学びながら、法令で定められた科目群を履修することで、社会教育主事(社会教育士)、学芸員、図書館司書、学校司書の諸資格(称号)のいずれか、あるいは複数の資格を取得することができます。

資格取得には目的が大切ですが、なるべく早めに履修計画を立てて履修を進めてください。社会教育主事(社会教育士)資格取得の希望者には社会教育実習が2年次に、学芸員資格取得の希望者には博物館実習が3年次と4年次にあります。ただし博物館実習については履修者の選抜を行います。

教育支援専攻カリキュラムの特色であるフィールド系の科目ですが、本コースでは、生涯学習支援論Ⅱ、社会教育実習、博物館実習Ⅰ、文化遺産教育フィールド演習A・B・Cがあります。この中から、1科目以上を履修してください。2年次に開設される「教育支援協働演習A～I」については、教育支援課程の各コースの学生とともに学ぶクラス編成がなされます。クラスの振り分けについては1年次の2月頃にガイダンスを開催します。

4. 4年間の学習計画や進路(進学・就職について)

生涯学習領域では、社会教育学、図書館学、博物館学を中心に、カリキュラムを通して、生涯学習を支え、コーディネートするための力、また、学校教育支援を実践する力を身につけることを目指しています。

社会教育学研究室は人びとの主体的な学習を支援し学びあうコミュニティをコーディネートする人材を育成する科目を、図書館学研究室は資料・情報の専門家養成のために公共図書館や学校図書館、大学図書館や専門図書館、情報センターなどに関連する科目を、博物館学研究室は、博物館学芸員や展示・情報処理などの博物館関連専門職、教育・文化行政の担当者などを目指すための力量を高めるための科目を用意しています。進路としては、社会教育・生涯学習関係職員、図書館司書、学校司書、博物館等学芸員など、取得した資格を活かした社会教育現場、自治体職員、公務員、教育関連産業、人材開発関連企業等が考えられます。

文化遺産教育領域では、就職の際、文化財関係諸機関の採用条件になる可能性が高いので、学芸員資格の取得を強く勧めます。文化財研究は、研究対象、研究法が多岐にわたるので、早いうちから、多くのSA科目、ゼミなどに出席し、学習・経験することで自分の目的とする文化財研究を見出して行ってください。進路としては、本学大学院のほか、他大学の考古学、文化財科学、保存科学を専攻する大学院などへの進学、就職先としては、博物館・美術館学芸員、国および地方自治体の文化財関係機関専門職員、展示制作や文化財関連企業などが考えられます。

5. 4年間の標準的履修モデル

学年	1		2		3		4	
学期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
課程共通科目(SS)	教育支援概論 A	教育支援概論 B	教育支援協働演習 A～I	教育支援協働演習 A～I				
S科目・卒業研究	生涯学習・文化遺産教育コース入門セミナー 生涯学習概説 I 現代社会と生涯学習 文化遺産教育と考古学 文化財科学概説	生涯学習とキャリア形成 文化遺産と保存科学	生涯学習社会と博物館 図書館情報学概説 I	学校図書館サービス特論			卒業研究	卒業研究
SA科目 生涯学習領域		生涯学習概説 II 同和問題と社会教育	生涯学習支援論 I 社会教育実習(集中) 子ども図書館 サービス論 博物館資料論 博物館経営論	生涯学習支援論 II 図書館情報学概説 II 地域図書館サービス論 地域図書館経営論 博物館学基礎論 博物館展示論	社会教育演習 I 図書館情報学演習 I 博物館実習 I 博物館情報・メディア論	社会教育演習 II 図書館情報学演習 II 博物館実習 II	博物館実習 III	博物館実習 III

学年	1		2		3		4	
学期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
SA科目 文化遺産教育 領域		考古学研究 法	考古学実地 研究Ⅰ 文化財科学 実地研究 文化財分析 化学 日本東洋美 術史概説 文化遺産特 殊研究 A・B 地域考古学 A・B	考古学実地 研究Ⅱ 保存科学実 地研究 文化財環境 化学 文化財分析 化学実験 文化財環境 化学実験 文化財と関連 諸学 A・B 文化財保存・ 修復研究 A・ B 日本考古学 Ⅰ	考古学演習 保存科学演 習 文化財科学 演習 日本東洋 美術史演 習	文化遺産教 育フィールド 演習 A・B・C 日本考古学 Ⅱ 表装実習(集 中)		
教室行 事	新入生歓迎 会	領域希望調 査		研究室希望 調査			卒業論文 中間発表 会	卒業論文 最終発表 会
その他	キャリア支 援セミナー (企業・公 務員)		キャリア支 援セミナー (企業・公 務員)		キャリア支 援セミナー (企業・公 務員)			

教育支援専攻(E類) カウンセリングコース

1. コースの目的・目標

カウンセリングコースは、学校現場や社会で生じている心の問題に対応するために必要な心理学の理論・方法・技術を学び、スクールカウンセラー等教育支援の現場における心理専門職を養成することを目的としている。

2. カリキュラムの特色と構造

カウンセリングコースのカリキュラムは、公認心理師（国家資格）を養成するための学部カリキュラムに基づいており、1) 心理学の研究法を学ぶための科目群、2) カウンセリング・臨床心理学の技法や実践を学ぶ科目群の2つから構成される。1) の科目群としては「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」「心理学統計法Ⅰ・Ⅱ」「心理学実験」などの科目が開設され、ここで身につけた研究能力を3～4年次の「臨床心理学基礎演習・応用演習」「卒業研究」で実践していく。2) の科目群では、「臨床心理学概論」で学習課題を把握し、「面接技法演習」「心理学的支援法」「精神疾患とその治療」「心理的アセスメントA・B」「心理演習」などでカウンセリングや心理査定の手法を身につけ、「心理学概論」「発達心理学」「知覚・認知心理学」「神経・生理心理学」などで心理学の様々な知識を学ぶ。また、4年次には「心理実習」を通して、公認心理師が働く現場の見学実習を行う。

3. 履修の方法

(1) 課程共通科目(SS)

課程共通科目（SS）については、49ページの説明をよく読み、履修すること。

(2) 選択科目(SA・SB)

「心理学概論」「心理学統計法Ⅰ」「心理学統計法Ⅱ」の3科目は選択科目（SB）であるが、これらの履修を前提に上位学年の授業が組まれているため、必ず全員が標準開設学期に履修すること。これらの授業を履修していない場合、上位学年の授業が理解できない場合がある。

(3) 卒業研究に向けて

3年次の春学期に卒業研究のための研究室配属を行う。研究室では、卒業研究に向けた指導をゼミ形式で受ける。卒業研究の学びは、3年次は「臨床心理学基礎演習」「臨床心理学応用演習」、4年次は「卒業研究」としてそれぞれ単位化されている。

「研究室に配属されるためには、「心理学統計法Ⅰ・Ⅱ（2つで1科目）」「教育・心理データ解析法」「実験・観察研究法（A類学校心理プログラムSA）」「心理学研究法Ⅰ」「心理学研究法Ⅱ」の5科目のうち4科目以上の単位を修得していることが条件になる。この条件を満たさない場合、卒業が延期にならざるを得ないので、十分に注意すること。

(4) 心理実習

4年次・通年の「心理実習」は、選択科目（SA）であるが、その単位修得が卒業要件であるため必ず履修する。ただし、公認心理師資格を取得しない場合には、4年次・春学期の「教育支援実践演習」をこれに置き換えることもできる。

4. 4年間の学習計画や進路(進学・就職について)

2～3年次における研究法などの授業では、データ収集・分析など授業時間外での学習が多

く要求される。また3年次後半～4年次は、卒業研究や就職・進学準備に追われることが多い。これらをふまえ1年次から計画的に単位を修得していくことが重要である。

卒業後の進路としては、スクールカウンセラー（SC）や教育相談所等の相談員など学校現場における心理職を目指す者が大半であるが、公務員心理職（児童相談所・家庭裁判所調査官等）、医療・福祉施設の心理職として間接的に教育支援を行う進路も考えられる。なお、SCをはじめ心理の専門職につくためには、大学院修士課程の修了（公認心理師・臨床心理士の資格取得）を求められることが多い。したがって、これらの職種を希望する場合は、大学院進学を視野に入れて学習することが求められる。

5. 4年間の標準的履修モデル

学年	1		2		3		4	
学期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
課程共通科目 (SS)	教育支援概論A	教育支援概論B	教育支援協働演習A～I	教育支援協働演習A～I				
S科目	カウンセリングコース入門セミナー 臨床心理学概論	人間理解の心理学 スクールカウンセリング概論	教育・心理データ解析法 カウンセリングとキャリア形成 心理学研究法I	心理学研究法II	臨床心理学基礎演習 心理療法実践演習	臨床心理学応用演習	卒業研究（SZ）	
SA科目			面接技法演習	心理学的支援法 障害者・障害児心理学 産業・組織心理学 福祉心理学	健康・医療心理学 人体の構造と機能及び疾病 司法・犯罪心理学 心理学的アセスメントA 感情・人格心理学 心理学実験	学習・言語心理学 精神疾患とその治療 心理学的アセスメントB 公認心理師の職責 心理演習 神経・生理心理学	心理実習I 関係行政論 教育支援実践演習（集中）	心理実習II
SB科目	心理学概論 発達心理学 心理学統計法I	教育・学校心理学 心理学統計法II	社会・集団・家族心理学	知覚・認知心理学				
教室行事	新入生オリエンテーション				研究室配属		卒論中間発表会	卒論発表会

教育支援専攻(E類) ソーシャルワークコース

1. コースの目的・目標

少子高齢化、家族の縮小化、地域の相互扶助の弱体化、グローバリゼーションの進行等を背景として、生活問題は多様化、複雑化、深刻化、潜在化している。ソーシャルワークコースでは、このような生活問題に対応し、人々のウェルビーイングの増進を目指して、社会福祉の専門的知識と技術をもって、関連領域の専門家や地域の人々等と協働しながら、ソーシャルワークを実践する社会福祉の専門家の養成を目的としている。

2. カリキュラムの特色と構造

課程共通科目では教育支援課程のあらゆるコースの学生とともに、教育支援現場の実態や課題について学び、教育支援人材に必要な基礎的知識を学ぶ。コース必修科目では社会福祉やソーシャルワークを理解する基盤を養う。なお、「社会福祉演習Ⅰ」と「社会福祉演習Ⅱ」では学生が特に興味や関心を持つテーマに関し、専門の教員の指導の下で主体的に調査研究を行なう。コース選択科目はコース必修科目の基礎を踏まえて、社会福祉士養成科目を中心に社会福祉の専門家にとって必要な知識や技術等の習得を目指して学習する。なお、社会福祉士養成科目の必要単位を取得することにより、社会福祉士の受験資格を得られる。また、それに加え、スクール(学校)ソーシャルワーカーの科目の単位を取得することで、スクールソーシャルワーカーの認定が得られる。

3. 履修の方法

・教養科目(CA・CH・CL/22単位)

各領域の指定科目・単位数を含む22単位以上を履修する。ソーシャルワークコースでは特に総合学芸領域(社会・生活・文化・歴史)の分野の科目を含めて履修することが望まれる。

・教育創成科目(EC/7科目7単位)

子ども・教師・学校が社会とともにより良い未来を創造していけるような教育の実現を目指し、そのために必要な資質能力を養うことを目的に設置された科目である。「教育のためのデータサイエンス」1単位を必ず履修し、「区分」欄の「Ⅰ群」から3単位以上、「Ⅱ群」から3単位以上、合計7単位以上履修する。

・課程共通科目(SS/4科目6単位)

教育支援課程の複数の教員によって授業が展開され、他コースの学生とともに教育支援に関する多様な専門について学ぶ。1年次に開設される「教育支援概論A・B」については、春学期に「A」、秋学期に「B」という順番で履修すること。2年次に開設される「教育支援協働演習A～I」は、7回1単位科目がⅢ前/Ⅲ後/Ⅳ前/Ⅳ後に合計9科目開設されるので、その中より2科目を選択して履修する。

・コース必修科目(S/6科目12単位)

講義と演習があり、標準開設学期に履修することを原則とする。「社会福祉演習Ⅰ」と「社会福祉演習Ⅱ」では専門の教員のもと、卒業研究に向けて各人の調査・報告とディスカッションを行う。なお、「社会福祉原論Ⅰ」と「社会福祉原論Ⅱ」は社会福祉士受験資格を取得するために必修となっている。

・コース選択科目(SA/50単位以上)

本コースの中心となる専門科目であり、各人の学問的関心と希望進路に沿って適切な科目を選択履修する。番号がついている科目については、番号の若い科目を先ず受講することにより、次の番号の科目の内容理解が容易になるため、順番に履修することを原則とする。社会福祉士受験資格を取得する場合には、社会福祉士一覧に記載された科目を履修する必要がある。同様に、スクール(学校)ソーシャルワーカーの認定を受ける場合にも、社会福祉士養成科目に追加して、一覧に記載された科目を履修する必要がある。なお、「ソーシャルワーク実習」または「教育支援実践演習」のいずれかは、必ず履修しなければならない。その際、社会福祉士受験資格取得希望者かつ要件を満たす者のみが「ソーシャルワーク実習」を履修できる。また、「ソーシャルワーク実習」を履修する前年度までに「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」を履修すること。「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」および「ソーシャルワーク実習指導Ⅲ」と「ソーシャルワーク実習」は同じ年度に履修すること。同様に、「スクールソーシャルワーク演習・実習指導」と「スクールソーシャルワーク実習」も同じ年度に履修すること。なお、「スクールソーシャルワーク演習・実習指導」および「スクールソーシャルワーク実習」の履修は、「スクールソーシャルワーク論」の単位取得が前提となる。

・課程共通選択科目(SC/4単位)

他コースで開設された科目を履修することで、多様な学びを深めることを目的に設置された科目である。他コースで開設しているSC科目を4単位以上履修する。

・卒業研究(SZ/4単位必修)

テーマを設定し、これまでの研究成果等を踏まえて、研究目的にそった調査等を行い、論文の形式にまとめて発表する。

4. 4年間の学習計画や進路(進学・就職について)

大学の授業科目の履修は卒業後の希望進路と密接に関係する。自分なりの生き方を選んで積極的に情報を集め、目標実現に向けて計画的に努力を積み重ねることが重要である。

ソーシャルワークコースの学生が目指す仕事は、スクールソーシャルワーカー、児童養護施設職員、国家・地方公務員、医療ソーシャルワーカー、社会福祉協議会職員、地域包括支援センター職員などである。また、本学の修士課程である教育支援協働実践開発専攻教育協働研究プログラム等に進学することもできる。

5. 4年間の標準的履修モデル

学年	1		2		3		4	
学期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
課程共通科目 (SS)	教育支援概論 A	教育支援概論 B	教育支援協働演習 A～I	教育支援協働演習 A～I				
必修科目 (S)	社会福祉原論 I ソーシャルワーク コース入門セミナー	社会福祉原論 II	ソーシャルワーク とキャリア形成		社会福祉演習 I	社会福祉演習 II		
選択科目 A (SA)	ソーシャルワーク 論 I 心理学と 心理的支援	ソーシャルワーク 論 II 社会理論と 社会システム 医学概論	ソーシャルワーク 論 III ソーシャルワーク 実習指導 I 児童福祉論 社会保障論 I 公的扶助論 (集中)	ソーシャルワーク 論 IV ソーシャルワーク 演習 I 地域福祉論 I 社会保障論 II 高齢者福祉論 障害者福祉論	ソーシャルワーク 論 V ソーシャルワーク 演習 II・III ソーシャルワーク 実習指導 II ソーシャルワーク 実習 (通年) 地域福祉論 II 社会福祉経営 医療福祉論 権利擁護と 成年後見 司法福祉論	ソーシャルワーク 論 VI ソーシャルワーク 演習 IV・V ソーシャルワーク 実習指導 III ソーシャルワーク 実習 (通年) スクール ソーシャルワーク 論 社会福祉調査 精神保健学概論	教育支援実践 演習 (集中) スクール ソーシャルワーク 演習・実習指導 スクール ソーシャルワーク 実習 (通年)	スクール ソーシャルワーク 実習 (通年)
卒業研究 (SZ)							卒業研究 (通年)	
教室行事				ゼミ分け			卒業研究 中間発表会	卒業研究 発表会
その他					3年生キャリア 支援セミナー (教員・企業・ 公務員等)			

【重要】

※1：以上に加えて、教養科目、教育創成科目および課程共通選択科目については、以下の通り履修する必要がある。

○教養科目：各領域の指定科目・単位数を含む 22 単位以上を履修すること。

○教育創成科目：「教育のためのデータサイエンス」1 単位を必ず履修し、「区分」欄の「I 群」から 3 単位以上、「II 群」から 3 単位以上、合計 7 単位以上履修すること。

○課程共通選択科目：他コースで開設している SC 科目を 4 単位以上履修すること。

※2：SSW 教育課程を履修する者は、以上に加えて、「教育組織論」、「教育心理学」、「特別支援教育の理解」を履修する必要がある。

教育支援専攻(E類) 多文化共生教育コース

1. コースの目的・目標

急速にグローバル化が進む現代社会では、ひとりひとりが異なる文化や社会を理解し、変化し続ける時代を見通す新たな価値を生み出していく姿勢が強く求められています。多文化共生教育コースは、異文化理解の能力と実践的な語学力を身につけ、世界の多様性に対する感性や知識を深めつつ、変動する社会における多様な現場や教育支援・協働の分野に寄与する人材を育成します。グローバルな視野を身につけ、幅広く世界の動態や社会・教育・文化に関わる人材、さらには国際的な場に関わる創造的な人材を世に送り出すことを目的としています。

2. カリキュラムの特色と構造

本コースでは、英語+初習語学の語学力を基盤として、幅広い視点から多文化共生と教育支援にアプローチしていきます。

①グローバル世界を理解する

「グローバル化する世界と社会」「グローバル・ヒストリー」「グローバル社会論演習」など

②次世代の持続可能で包摂的な共生社会を目指す

「多文化共生とダイバーシティ」「地域社会とサステナビリティ」「現代文化人類学」など

③多様な言語文化に触れ多文化共生を考える

「英語応用」のほかドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・韓国語関連授業

「言語と多文化」「比較文化論演習」など

④フィールド実践・研究の方法論

「フィールド研究」「フィールドワーク方法論」「社会調査方法論」「多様な史資料へのアプローチ」

「異文化間協働へのアプローチ」など

3. 履修の方法

(1) 課程共通科目(S S)

「教育支援概論A」「教育支援概論B」(2科目4単位)に加え、「教育支援協働演習A~I」(各1単位)から2科目以上を選択し、合わせて4科目6単位以上必修です。

(2) 課程共通選択科目(S C)

課程共通選択科目として指定されている他コースの授業科目の中から2科目4単位以上が必修です。

(3) コース必修科目(S)

9科目14単位必修です。

(4) 選択科目A(S A)

「多文化共生論基礎演習A・B」「グローバル社会論基礎演習A・B」から1科目2単位以上、「多文化共生論演習A・B」「グローバル社会論演習A・B」「教育支援実践演習」から1科目2単位以上を含め、SAとSBを合わせて48単位以上取得します。

4言語(ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語)の中から1言語選択し、同じ言語について「〇〇語入門Ⅰ・Ⅱ」「〇〇語応用Ⅰ・Ⅱ」「〇〇語実践Ⅰ・Ⅱ」の6科目6単位を履修します。卒業論文に向けて、できるだけ自分の学問的関心に関連する言語を選択するように心がけてください。加えて他の言語を履修することもできます。

＊初習語学は、SA で選択したものと同一言語について、教養科目の語学 (CL) の「〇〇語基礎Ⅰ～Ⅳ」が必修です。また、選択外国語「〇〇語コミュニケーション AⅠ・AⅡ／BⅠ・BⅡ」「〇〇語プレゼンテーション」「〇〇語表現」も併せて履修してください。

(5) 選択科目 B (S B)

他専攻や他コース (A・B 類国語, E 類生涯学習, E 類表現教育) の S や SA 科目から 6 科目 12 単位が本コースの SB として指定されています。SA と合わせて 48 単位以上取得します。

(6) 卒業研究

4 単位必修です。本コースでは卒業研究として卒業論文を作成します。

4. 4年間の学習計画や進路(進学・就職について)

(1) 必修科目優先：履修計画にあたり、まずは必修科目を優先させ、必ず標準開設学期に履修して単位を取得するよう心がけてください。

(2) 留学：本コースでは世界各国の協定校への派遣留学や語学研修を推奨しています。留学希望者は、早めに留学の計画を立てて、卒業までのスケジュールを考えましょう。

(3) ゼミと卒業論文：3 年次始めまでには所属ゼミを決め、卒業論文に向けて研究を進めていくことになります。卒論提出までのスケジュールは以下のとおり。

① 3 年次秋学期：プレ卒業論文を提出

② 4 年次秋学期：卒業論文中間発表会

③ 4 年次秋学期：卒業論文提出

④ 卒業論文提出後：口頭試問

上記①～④をすべてクリアすることで、卒業研究の単位取得が可能となります。

(4) 卒業後の進路：本コースの卒業後に想定される進路は、国家公務員・地方公務員・教育関連企業・メディア関連（新聞社、放送局、出版社など）・一般企業・在外教育施設（日本人学校等）教職員・NPO や NGO 職員・国際機関職員・大学職員・大学院進学などです。

5. 4年間の標準的履修モデル

初習語学以外の教養科目など全学的な科目については本書の関連する項目を参照してください。

学年	1		2		3		4	
学期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
課程共通科目(SS)	▶教育支援概論 A	▶教育支援概論 B	▶教育支援協働演習 A～I	▶教育支援協働演習 A～I				
課程共通選択科目(SC)	▶現代社会と生涯学習 ▶文化遺産教育と考古学 ▶ソーシャルワーク論 ▶身体知と文化	▶人間理解の心理学 ▶音楽表現概説 ▶アントレプレナーシップ論	▶生涯学習社会と博物館 ▶図書館情報学概説 ▶児童福祉論 ▶教育情報化論 A・B ▶教育情報化教材論 A ▶批評理論研究 ▶戯曲翻訳研究 ▶スポーツ産業論	▶障害者・障害児心理学 ▶教育情報化論 C ▶教育情報化教材論 B ▶インプロ研究 A/B	▶医療福祉論			
S 科目	▶多文化共生教育コース入門セミナー ▶多文化共生教育とキャリア形成 ▶多文化共生とダイバーシティ		グローバル化する世界と社会	▶地域社会とサステナビリティ				
S 科目 英語	▶英語応用 I	▶英語応用 II	▶英語応用 III	▶英語応用 IV				
CL 科目 初習語学	▶○○語基礎 I	▶○○語基礎 II	▶○○語基礎 III ▶○○語コミュニケーション A I / B I ▶○○語プレゼンテーション	▶○○語基礎 IV ▶○○語コミュニケーション A II / B II ▶○○語表現				
SA 科目 初習語学	▶○○語入門 I ▶○○語応用 I	▶○○語入門 II ▶○○語応用 II			▶○○語実践 I	▶○○語実践 II		
SA 科目			▶多文化共生論基礎演習 A/B ▶グローバル・ヒストリー A/B ▶現代文化人類学 A/B ▶異文化間協働へのアプローチ A/B	▶グローバル社会論基礎演習 A/B ▶言語と多文化 A/B ▶多様な史資料へのアプローチ A/B	▶多文化共生論演習 A/B ▶フィールドワーク論演習 A/B	▶グローバル社会論演習 A/B ▶社会調査方法論演習 A/B ▶比較文化論演習 A/B	▶教育支援実践演習	▶フィールド研究 A/B

SB 科目	▶日本語教育概論	▶子どもの日本語教育 A:子どもの社会文化背景とバイリンガリズム ▶同和問題と社会教育演劇と社会		▶言語学概論	▶日本語教育の歴史と言語政策	▶言語学概論	▶日本語教育の歴史と言語政策	
SZ 科目							卒業研究	卒業研究
教室行事	4月：履修オリエンテーション		4月：履修ガイダンス		4月：履修ガイダンス	プレ卒業論文提出	4月：履修ガイダンス	卒業論文中間発表会／論文提出／口頭試問
その他	キャリア支援セミナー（企業・公務員）		キャリア支援セミナー（企業・公務員）		キャリア支援セミナー（企業・公務員）			

教育支援専攻(E類) 情報教育コース

1. コースの目的・目標

社会の情報化が進み、その社会で生きるための力を育てる教育と、情報通信技術(ICT)の教育への活用が求められています。教育支援課程教育支援専攻(E類)情報教育コースは、こうした教育を支える人として、教育産業・情報産業を担う情報技術者、教育の情報化の実践を支援する人を育てることを目的としています。

2. カリキュラムの特色と構造

本コースのカリキュラムは、情報科学・情報工学・教育工学の基礎・専門的事項を習得しながら、教育の情報化とその支援に関わる知識・技能を身につけていきます。

1年次には、情報科学・情報工学の基礎を、共通科目である「AI時代の情報」を基本に、「コンピュータシステム概論」「プログラミングⅠ・Ⅱ」「プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ」「情報数学」で学びます。

2年次からは、情報科学・情報工学・教育工学の幅広い専門的事項を学ぶための専門科目(1年次を含め18科目開設)、及び教育の情報化とその支援について学ぶ「ソフトウェアシステムと教育支援(この科目のみ1年次)」「教育情報化論A・B・C」「教育情報化支援教材論A・B」「教育情報化システム論」「教育情報化支援論」を履修します。なお、教育の情報化支援に関しては4年次の「教育情報化支援フィールドワーク実習」が集大成的な科目となります。

そして、3年次からは、「情報科学教育演習A・B」「卒業研究」を含む研究室での活動が始まります。

3. 履修の方法

(1) 専門系演習

「情報科学教育演習A・B」は卒業研究の準備にあたる専門系演習科目です。この演習科目を履修するためには、履修する年度の前年度末(標準では2年次終了時点)に総取得単位数が62単位以上、かつ本コースの専攻科目(S, SA, SB)から30単位以上取得している必要があります。なお、両演習科目は複数クラス開講されますので、指導教員に指示されたクラスに出席してください。

(2) 卒業研究

本コースでは、3年次から研究室に所属し、研究室の枠組みの中で、より専門的な知識や卒業研究のスタイルを学ぶ上記専門系演習、4年次には卒業研究に取り組みます。研究室は学校教育教員養成課程中等教育専攻(B類)情報コースと合同です。どのような研究室があるかは、webサイト(<https://joho.u-gakugei.ac.jp/>)を閲覧してください。

卒業研究の履修のためには、履修する年度の前年度末(標準では3年次終了時点)に上記専門系演習2科目4単位、必修の専攻科目(S科目)のうち、「コンピュータシステム概論」、「プログラミングⅠ・Ⅱ」、「プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得していることが必須となります。

なお、卒業研究の単位取得には、少なくとも月1回の研究報告、卒業論文の提出と卒業研究発表、及びそれぞれへの合格判定が必要です。また、卒業論文の提出と卒業研究発表を行うためには卒業までに同じ研究室に2年間所属することが条件となります。

(3) 数学系基礎科目

情報科学、情報工学を学ぶために数学の知識は必須になります。そこで、B類情報コースで開設されている「基本解析学Ⅰ・Ⅱ」、「基本代数学Ⅰ・Ⅱ」、「数理・データサイエンスⅠ・Ⅱ」を必ず履修してください。

(4) 専門科目

情報教育コースのカリキュラムでは、情報科学、情報工学、教育工学の専門的事項を網羅できるように各種専門科目を選択科目(SA,SB)として開設しています。すべての科目の単位を取得しなくても卒業要件をクリアできてしまいますが、情報系の専門知識を身につけるためにも、すべての科目を、特にⅠ～Ⅳ期に開設されている基礎的な科目は必ず履修することを推奨します。

(5) 教育情報化支援フィールドワーク実習とその履修条件

「教育情報化支援フィールドワーク実習」と「教育支援実践演習」はどちらかの単位を必ず取得する必要がある選択必修科目です。このうち「教育情報化支援フィールドワーク実習」は、情報教育コースの学びの集大成と位置付けている科目です。なお、この「教育情報化支援フィールドワーク実習」の履修条件として、「教育情報化論 A・B・C」の単位取得済みであることを定めています。

(6) その他の情報系科目

創成科目の「教育の情報化基礎」「学校におけるプログラミング教育」「Edtech と最先端技術の活用」は、本コース開設科目では学びきれない情報系の内容を扱う科目なので、履修することをお勧めします。

4. 4年間の学習計画や進路(進学・就職)について

3年次からより専門的な学習が本格化するのに加え、研究室での活動も始まります。ですから、1, 2年次に計画的に学習を進め、基礎学力をしっかりと身につけて下さい。

本コースで学習する内容に関わる公的資格試験(例えば、情報処理技術者試験など)やその他の試験(教育情報化コーディネータ検定試験など)もありますので、自らの力を試してみるのも良いでしょう。

卒業後の進路としては、最先端のICTを活用した情報通信システムや教育用ソフトウェア、デジタル教材を開発し、学校の外から教育を支援する仕事、教育現場における情報教育やICT活用を支援・指導する仕事(ICTコーディネータ、ICT支援員等)があげられます。また、より高度な知識の修得や研究を行うために大学院(修士課程教育 AI 研究プログラム)へ進学することを勧めます。

5. 4年間の履修モデル

学 年	1		2	
開設学期	I (26)	II (25)	III (25)	IV (23)
課程共通	教育支援概論A	教育支援概論B	教育支援協働演習A～I	教育支援協働演習A～I
専攻科目	情報教育コース入門 セミナー コンピュータシステム概論 プログラミング I プログラミング演習 I	情報数学 プログラミング II プログラミング演習 II ソフトウェアシステムと教育 支援 オートマトンと形式言語	教育情報化論 A 教育情報化論 B 教育情報化支援教材論 A データベース論 応用プログラミング 情報デザイン論 計算機ハードウェア マルチメディア情報解析	教育情報化論 C 教育情報化支援とキャリア 形成 教育情報化支援教材論 B 数値計算 情報メディア論 オペレーティングシステム論 HCI プログラム言語論とコンパイラ
その他の情報系科目	AI 時代の情報 (B)基本解析学 I (B)基本代数学 I (B)数理・データサイエンス I	(創 I)教育の情報化基礎 (B)基本解析学 II (B)基本代数学 II (B)数理・データサイエンス II	(創)教育のためのデータサイエンス (創 I)学校におけるプログラミング教育	(創 II)Edtech と最先端技術の活用
その他	日本国憲法 (CA 科目) (CA 科目) 英語コミュニケーション B 初習語学 I スポーツ・フィットネス実習 キャリア支援セミナー(企業・公務員)	人権教育 英語コミュニケーション A 初習語学 II ウェルネス概論 (創成科目)	(CA 科目) 初習語学 III (SC 科目)	初習語学 IV (創成科目) (SC 科目)
			キャリア支援セミナー(企業・公務員)	

学 年	3		4	
開設学期	V (14)	VI (13)	VII (6)	VIII
専攻科目	教育情報化システム論 情報システム 教育学 データ分析とコンピュータ論 知識処理と人工知能論 情報科学教育演習 A (SC 科目)	教育情報化支援論 システムプログラミング 計測と制御 ネットワークシステム 情報科学教育演習 B (SC 科目) (創成科目)	教育情報化支援フィールドワーク実習 卒業研究	
その他	キャリア支援セミナー(企業・公務員)			

注意：このモデルでの履修を強制するものではありません。また、時間割の都合上、このモデルの通り履修できないことがあります。

教育支援専攻(E類) 表現教育コース

1. コースの目的・目標

高度情報化社会と呼ばれる現代においてこそ、人と人が直接に向き合い、コミュニケーション能力を発揮することの重要性は高まっています。また、ライフスタイルが多様化した社会のなかでは、ひとりひとりが主体性を発揮しながら互いの個性を尊重して協働し、それぞれの創造力を生かすことを求められています。

このコースでは、さまざまな芸術表現活動の学びを通じて、高いコミュニケーション能力を身につけ、教育の場を支援していくことのできる人材を育てることを目的としています。創造的なアイデアを提案し、他人にそれを理解してもらい、社会のなかでいかにそれを実現してゆくのかについて、芸術表現活動の実践や研究をとおして学ぶとともに、そうした実践・研究を教育の場に活かす方法について学ぶことが、このコースの目標です。

このコースには、演劇表現、音楽表現、デザインについて研究している専任教員が所属しており、それぞれの専門分野や、隣接する身体表現、映像表現、言語表現に関する講義や演習を行います。

2. カリキュラムの特色と構造

1年次に開設される専攻科目は、すべて必修です。春学期の「表現教育入門セミナー」は、高校までの学びとは違う大学での学びについて考えるためのものです。秋学期に開設されるコース科目では、さまざまな芸術表現活動の基礎について学ぶとともに、それらを広く教育の場に応用する方法について考えます。また、教育支援課程共通の必修科目「教育支援概論A・B」では、コースの枠を超えて、教育支援について幅広く学びます。さらに、1年次から2年次にかけて、教育支援課程の他コースに開設される科目から2科目を選択して履修します。

2年次に開設される「表現教育とキャリア形成」は、大学での学びを将来のキャリアに結びつける方法を考えるための必修科目です。さらに、教育支援課程共通の選択必修科目「教育支援協働演習A～I」で、教育支援についてより実践的に学びます。このほか、2・3年次には、コース科目から各自の興味・関心に合わせたものを選択し、芸術表現活動のそれぞれの分野についてより専門的な事柄を学びます。

4年次には、コース科目から各自の興味・関心に合わせたものを選択し、芸術表現活動のそれぞれの分野についての学びを深めるとともに、大学での学びの集大成として「卒業研究」に取り組みます。

3. 履修の方法

選択科目のうち、3年次に開設される専任教員が担当する演習科目については、それぞれの教員が担当する必修科目が履修済みでないと受講することができません。詳しくは、シラバスで各科目の「受講補足（履修制限等）」の欄を確認してください。

4. 4年間の学習計画や進路(進学・就職について)

1年次秋学期に開設される必修科目は、表現教育コースにおける学びの土台となるものです。きちんと履修しておかないと、2年次以降に開設される科目の履修に大きな影響が出るので注意してください。専任教員が担当する演習科目は、このコースの中核となる科目であり、このコースにおける学びのいわば幹となるものです。これらの科目を中心に、それ以外の

選択科目のなかから、各自の興味のある分野や、隣接する分野の授業をつけ加えていってください。

表現教育コースでの「卒業研究」は、「卒業論文」です。「卒業論文」の執筆に向けて、学生は3年次から専任教員のいずれかのゼミに所属し、研究・実践を積み重ねることになります。4年次に開設される「表現教育卒研演習Ⅰ・Ⅱ」は、所属するゼミの担当教員のものを履修します。

卒業後の進路としては、芸術表現に関する知識と実践的応用力を活用して学校と学校外の組織とを連携する仕事、芸術表現を活用した教育を支援する仕事、芸術表現活動の企画・制作をする仕事、芸術表現の振興に関わる仕事などが想定されています。どの道を選ぶ場合でも、その基礎となるのは芸術表現についての造詣です。積極的に劇場・ホール・美術館・映画館などへ出かけ、また学内外での芸術表現実践活動に参加してください。また、どの道でも、基礎的な語学力が必要とされます。語学学習もおろそかにしないでください。

教育支援や各ジャンルの芸術表現についての学びをさらに深めたいという場合には、大学院に進学することも選択肢のひとつです。大学院レベルでの研究では、語学能力が特に重要になります。大学院によっては、入試で複数の外国語が課されることもありますので、その点も考慮して学習計画を立ててください。

5. 4年間の標準的履修モデル

学年	1		2		3		4	
学期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
課程共通科目(SS)	教育支援概論A	教育支援概論B	教育支援協働演習A～I	教育支援協働演習A～I				
S科目	表現教育入門セミナー	演劇と社会 演劇と教育 ビジュアルデザイン表現概説 音楽表現概説	表現教育とキャリア形成					
SA科目			音楽表現研究A・B 芸術表現実践論A・B (集中) アート・マネジメント論 批評理論研究(偶) 戯曲翻訳研究(奇)	芸術家と教育支援 インプロ研究A・B ビジュアルデザイン表現基礎A・B	アート・セラピー論 ビジュアルデザイン実践演習A・B 舞台表現指導演習A・B	舞台表現分析演習A・B 演劇表現分析演習A・B 表現教育技術演習	教育支援実践演習(集中) 表現教育卒研演習I	表現教育卒研演習II
その他	キャリア支援セミナー(企業・公務員)		キャリア支援セミナー(企業・公務員)		キャリア支援セミナー(企業・公務員)			

教育支援専攻(E類) 生涯スポーツコース

1. コースの目的・目標

本コースでは、スポーツを中心とした地域、学校、家庭の連携を実現していけるような教育支援のコーディネート力と運動指導力をもった人の育成をめざします。また、様々な対象者（健常者や疾患保有者）や年代（子ども・高齢者）に運動・スポーツをツールとして健康を広めていく、エキスパートの育成を目指しています。

2. カリキュラムの特色と構造

カリキュラムは、生涯スポーツについて人文社会学領域、自然科学領域およびそれらを複合領域の観点から学習する科目、ならびに実験・実習系の科目を用意し、それぞれの領域に特色を持たせるように構成されています。さらに、所定の科目を履修することで、卒業時に多様なスポーツ指導者関連の資格（健康運動指導士、健康運動実践指導者、日本スポーツ協会指導者資格など）を取得できたり、受験資格を得ることができます。

一部、保健体育教員免許状に関連する運動実技および講義の単位修得を卒業に必要な科目として履修することも可能です。そのため、生涯スポーツについて理論と実践の双方より包括的に学ぶことが可能です。

3. 履修の方法

- (1) 卒業研究は、大学での系統的な履修の総仕上げとしての必修科目です。3年次に開講される「生涯スポーツ研究法 A」「生涯スポーツ研究法 B」は、選択科目（SA）に分類されますが、卒業研究に向けた研究室単位のゼミになりますので、必ず全員が履修し、単位を修得する必要があります。
- (2) 本コースの所定の科目の単位を修得することによって、多様なスポーツ指導者関連の資格取得、受験資格取得が可能です。（年度初めのオリエンテーションなどで詳細な説明を行います。）
- (3) 教育支援実践演習は、選択科目ですが必ず履修してください。

4. 4年間の学習計画や進路（進学・就職について）

本コース卒業後の進路は、これまでの卒業生の実績からスポーツ関連企業（民間フィットネスクラブ等）、進学（修士課程・教職大学院）、教員、公共のスポーツ関連機関、選手としてトップリーグ（JリーグやVリーグ等）などです。2023年度入学生からは健康運動指導者・実践指導者（健康・体力づくり事業財団認定）の受験資格が指定単位を全て取得した際には得られますので、運動指導のスペシャリストとして民間・公共団体・NPO 法人などへの就職も増える可能性があります。

3年次春学期にはキャリア支援セミナーが開催されますので、各種企業や公務員などの情報を積極的に得るとよいでしょう。また、4年次の10月（秋学期初期）に大学院入試があります。この時期は、卒業研究における本格的な論文作成時期と重なるので、進学を希望する学生はできるだけ早い時期から準備をしておくことが望まれます。

5. 4年間の標準的履修モデル

学年	1		2		3		4	
学期	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
S 科目	●生涯スポーツ 入門セミナー	●生涯スポーツと キャリア形成	●スポーツ哲学	●運動処方論	●スポーツ支援 ネットワーク形成 実践演習			
SA 科目	●身体知と文 化 ●発育発達学 ●ニュースポ ーツ実習	●スポーツハ ビリテーション ●レジスタ ンス・エクサ サイズ実習	●スポーツコー チング論 A ●スポーツ史 ●スポーツア ントレプ レナシップ論 ●スポーツ産 業論 ●生涯スポ ーツ基礎 実習 ●スポーツ医 学・救急処 置 ●テーピ ング・マッ サージ実 習	●スポーツコー チング論 B ●スポーツコー チング論 C ●運動学習と 指導の心理 学 ●スポーツ人 類学 ●健康とス ポーツの栄 養学 ●健康・ス ポーツ科学 データアナ リクス ●体育・ス ポーツ測定 評価 ●地域ス ポーツ支 援演習 ●スポーツ カウンセリング 実習(集 中)	●生涯スポ ーツ研究法 A ●コーチング の心理学 ●スポーツ NPO論 ●運動疫学 ●健康ス ポーツ医 学 ●運動負 荷試験・ プログラム 演習(集 中)	●生涯スポ ーツ研究法 B ●スポーツ 社会学 ●スポーツ 政策学 ●スポーツ 教育支援 マネジメント 演習 ●レクリ エーション 支援演習 ●生涯ス ポーツ施 設実習 (集中)	●教育 支援実 践演習 (集中) ●卒業 研究	●卒 業研 究
SB 科目	●体育原理 B I ●体育原理 B II ●解剖生理学	●体育・ス ポーツ心理 学	●運動生理 学 B I ●運動生理 学 B II ●スポーツ ハビオメ ニクス	●体育・ス ポーツ経 営学				
自由 選択 科目 (実 技)		●スキー (集中)	●柔道 B ●ソフトボ ール B ●器械運 動 B ●陸上 B ●水泳 B ●体づく り運動 B	●剣道 B ●バスケ ットボ ール B ●バレー ボール B ●ハンド ボール (奇) ●ラグ ビー(偶) ●ダンス ●サッカ ーB		●ラケット スポーツ		
その他	キャリア支援 セミナー(企 業・公務員)		キャリア支援 セミナー(企 業・公務員)		キャリア支援 セミナー(企 業・公務員)			

学 生 番 号	氏 名
—	



国立大学法人

東京学芸大学

Tokyo Gakugei University